

## <研究ノート>

# トルコの工業化政策とエタティズム

——経済統計の分析を通して——

後 藤 晃

## 目 次

### はじめに

#### 一 トルコの統計事情

#### 二 トルコの経済政策と工業化

##### 1 初期工業化とエタティズム（1930年代）

##### 2 経済の自由化と挫折（1950年代）

##### 3 エタティズムへの回帰（1960, 70年代）

##### 4 消費構造の変化と輸入代替工業化の問題点

##### 5 経済開放政策の行方

#### 三 輸入代替工業化と農業

##### 1 トルコ農業の生産力

##### 2 輸入代替工業化政策と農業部門

#### 四 統計資料

### はじめに

本稿は、文部省の科学研究費による『アジア長期経済統計データベースプロジェクト』（研究代表者 一橋大学経済研究所 尾高煌之助）の筆者分担分（トルコ）の研究報告の一部である。研究では2つの作業を進めてきた。一つは、社会経済史に関わる地方レベルの統計の収集と分析である。トルコでは80年代に全国を網羅した地誌（Turk Ansiklopedisi）が編纂されており、これらの地誌やその他の取得可能な資料から統計を収集し分析を行うことで経済社

会の歴史動向を辿る試みである。また一つは、経済分析の基礎となる国民所得統計の収集と分析である。政府機関や銀行などが公表した統計資料にもとづき長期経済統計のデータベースを作成し分析することである。本稿はこの二つの課題のうちの後者に関わるものである。

論文の構成は、最初にトルコの統計事情を概観した。その理由は、個々の統計の概念を説明し信憑性について注を付記する必要性があるためである。トルコは植民地化をまぬがれ第一次世界大戦後に近代国家として自立した。このため途上国のなかでは統計が比較的よく整理されている。しかし、長期に渡る既存の統計数字は推計作業を通して作成された部分が多く、また時代を遡るほど基礎となる数字の正確度が下り、利用する上で注意が必要となる。

次いで、この統計数字に依拠して1930年代から1980年代までのほぼ60年間にわたるトルコの経済動向を分析した。1970年代までトルコは一貫して工業化を経済政策の中心に据えた。この政策的特徴は、市場経済に計画経済を組み入れる混合経済体制を採用し、国营企業を軸に工業化を進め民間企業の波及的發展をはかるという点にあり、このエタティズムが長期に工業化の理念とされてきた。この体制は近代トルコの発展を方向づけ少なくとも1970年代まで工業化も確実に進展した。しかし、閉鎖型の経済と国营企業中心の工業化路線が経済社会の硬直化をもたらし国際的な競争力を育てなかったことも事実であった。1970年代末に深刻な経済危機に陥り、この危機が社会的混乱を生み軍事クーデタを招いてトルコの歴史に禍根を残したのもこの硬直化した経済構造によるところが大きかった。この結果、80年代に入ると路線は大きく右旋回し自由化を進めて経済開放政策をとることになる。したがって、今日のトルコの経済を分析する上で、長期に選択されたエタティズムの分析は避けて通ることができない。ここで1980年代までに時代を限定して検討するのも現代問題を扱う準備という意味をもっている。

最後に資料としてトルコ経済に関する統計を載せた。プロジェクトの作業として収集作成した統計は国民所得統計に関わるより多岐にわたるものだが、ここでは本論文と関連があるものに限っている。

なお、統計資料の作成には、東京大学大学院経済学研究科博士後期課程のケイワン＝アブドリ氏と、一ツ橋大学大学院経済学研究科博士後期課程の比佐優子氏の協力を得た。

## 一 トルコの統計事情

トルコでは、1948年に内閣統計局の付属の研究所として国家統計研究所(SIS)が設立され、国民の生活と経済とに関わる各種の統計が整理加工されて刊行されている。この内、国民所得統計に関わる、また長期に指数化されている主なものを示すと次のようである。以下、主要な項目と統計のある年次を示す。

### ・人口統計

総人口，都市農村別人口，男女年齢別人口構成（1927～）

### ・労働力統計

部門別雇用労働者数（1923～）

### ・農業統計

作物別作付け面積と生産量（1925～）

果樹の樹木数と生産量，面積（1936～）

農具（犁など），農業機械（トラクターなど）の数（1952～）

家畜数，ミルク生産量（1929～）

### ・鉱業

固定資本投資額

労働者数（1963～）

鉱産物別生産量（1923～）

### ・製造業

業種別企業数，雇用労働者数，付加価値（1950～）

品目別生産量（1960～）

### ・貿易

輸出入量および輸出入額（1923～）

商品分野別（国際基準）輸出入額（1963～）

貿易相手国別・地域別輸出入額（1963～）

国際収支計算（1950～）

・物価と指数

消費者物価指数，卸売物価指数（1937～）

庭先価格（1935～）

作物別支持価格（1951～）

・通貨と金融

マネーストック（1949～）

預金（1949～）

為替レート（1950～）

・財政

収入・支出に関する諸統計（1923～）

国内・海外の負債（1950～）

・国民勘定

生産活動の種類による GNP（1923～）

消費支出からみた GDP（1980～）

間接税，固定資本，雇用者報酬，営業余剰（1980～）

トルコは国民国家として近代的な体制を整えた時期が早く，正確度の問題はさておき全国的な統計作りが比較的早い時期から進められきた。センサスは，第一回目が1927年に実施され，34年に始まる経済開発の五ヵ年計画を契機に30年代には基礎資料たる各種統計の作成作業が各省庁で始まった。ただ，統計事業が本格化するのには SIS が設立されて後の1950年以降であり，各部局が個別に行ってきた統計作業がここに集中化され，推計と加工が施されて長期に指数化する試みがされてきた。

1. 人口センサスは，1927年の以降5年ごと（西暦で末尾が0と5の年）に実施されてきた。しかし，1990年以降は，費用がかさむという理由で末尾が0の年のみとなり，10年に一度行われることになった。



センサスの実施日は外出禁止措置がとられ戸別訪問の方法で調査が行われる。調査の当日は休日となるために都市や町の住民が近隣の田舎に戻ることが多く、とくに都市人口において正確性に欠けると言われている。

経済活動人口は、センサスの実施時点で、所得を得る目的で少なくとも一週間に一日働いた者、働いてはいないが仕事をもつ者、仕事をもたないが探している者、のいずれをも含んでいる。

2. 労働力人口調査は、1963年に始まる第一次五か年計画の基礎資料を得る目的で初めて実施された。これ以前の数値は人口センサスにおける経済活動人口など限られた資料を基礎にサンプル調査を行い推計されたものである。

1988年に、ILOの技術協力を得てSISによる労働力調査がはじまった。これは都市部と農村部でサンプル調査を行いこの数値を基礎に全国レベルの推計を行うというものであり、これ以降は正確度がかなり高くなった。

失業者と雇用者の概念は以下のようなものである。

失業者：a 一日1時間以上働き報酬を得る者ではない者

b 過去6か月間以上仕事につく努力をし、15日以内に仕事を始める準備がある者

c 12歳以上

この3つを満たすもの

雇用者：a 一日1時間以上経済活動を行っている常雇い、臨時雇い、自己雇い、不払いの家族労働者

b 調査時にいろんな理由で働いていないが就業はしている者

c 12歳以上

この3つを満たすもの

3. 農業部門に関しては、SISと農業省農業統計局が農業関係の統計を作成する機関であり、農業省の地方の組織によって作成されたものが集計される。

1964年に村落省によって農村調査が実施され県単位に冊子にまとめられた。調査項目は、人口、土地利用、土地所有、地価、農業機械、化学肥料の投入量、灌漑水利など。また村におけるインフラも調査されている。1983年に

も同様な調査が実施されている。

SISでは1980年以降、末尾0の年に農業センサスを実施することになった。内容は、県単位に、農家数、経営規模別農家数、作物別農地面積、家畜数、機械数、灌漑地面積、化学肥料利用農家数、農産物販売量（国の組織、協同組合、商人、地域市場別）、農村社会の職種別人口（床屋、雑貨屋、製粉所、大工、鍛冶屋、織工、旅館などの数）などである。

農業生産物の生産量は流通を国家が十分に把握していないために大ざっぱな推計になっている。耕作地面積も同様である。農地に関しては、長期計画で土地台帳が作成されている途上にあり、政府はもとより個々の農家も正確には把握していない。

4. 工業に関する調査は、オスマントルコ時代の1915年にはじめて実施され、結果は「1913～15年工業センサス」として公表されている。共和国になってからは、1927年に建設を除く工業部門をカバーしたセンサスが実施され翌年に公表された。また、1932年から41年の間は「工業化促進法」との関連で調査が実施され、毎年公表された。1942年にはこの法律の廃止で中断したが、51年に農業を除く経済活動をカバーするセンサスとして復活した。

対象は人口2000人以上の都市と町で、人口がこれ以下のところはサンプリングで調査された。しかし、対象になったのは「大規模」に分類される企業に限られた。この分類による「大規模」とは、62年のセンサスでは10馬力以上または雇用者10人以上、1963～80年までは雇用労働者に雇用者と仕事に従事するその家族の数が10人以上である。また、83年以降は雇用労働者25人以上が対象とされた。

1981年以降、2600の「大規模」企業の調査が毎年実施されるようになった。この統計は調査にもとづいているため正確度は比較的高いといわれている。しかし、対象が「大規模」に限られていたことから企業全体を網羅するものではない。

5. 貿易統計は、輸入はCIF、輸出はFOBで示されている。税関で把握されるため共和国成立時から統計があるが、国際基準で分類が行われるようになる

のは1963年からである。

6. 国民勘定は、以上からわかるように、信頼度の高いものは少なくとも1960年代からといってよい。1923～47年は、T. Bulutay, N. Yildirim の『トルコ国民収入1923-48』が利用されているが信頼度は低い。1948年以降はSISがこれを担当した。

当初、国民勘定の概算は異なる基準でいくつかの研究グループによる行われてきた。1951年に統計局の局長のもとに国民所得研究グループが設けられて基準が統一され、SNA基準にできるだけ沿った形で、産業活動のタイプによる国民総生産、投資財のタイプによる固定資本形成、サブグループによる国民消費が計算された。

いずれにせよ1990年までは情報源などに問題があったようだが、これ以降は解決されたといわれている。この年に基準年を1967年から87年に移し、さらに国民勘定の項目に含まれていなかったいくつかの項目が過去に遡って加えられた。

1993年に国民支出のアプローチで統計が作られ始める。またSNAの定義にもとづいて統計が編成されるようになる。

トルコの統計資料でSIS以外に公表されているものとしては、トルコ中央銀行(Merkez Bankasi)のYıllık Repor(年次レポート)と月刊のIstastik ve Degerlendirme(統計・評価ブリテン)がある。前者は当該年のトルコと世界の経済状況、中央銀行の活動の概要に関するレポートであり、付録として統計資料が載せられている。また、トルコ実業銀行(Turkiye İş Bankası)も毎年Economik Repor(経済レポート)を、月刊でMonthly Indicators of Turkey, Monthly Economic Letterを公表している。

政府計画局(Devlet Planlama Teşkilatı)は5か年計画の概要を示した年次プログラム、月刊で「トルコ：主要経済指標」を刊行している。また、定期刊行物以外にもさまざまな調査書を刊行している。

その他、財務・貿易庁(Hazine ve Dış Ticaret Menstesan)や農業省(Tarım Bakanlığı)などの省庁からも統計データが公表されている。しかし定

期刊行物はない。

全国商工会議所の本部であるトルコ商工会議所 (Türkiye Ticaret, Sanayi, Deniz Ticaret Odası ve Ticaret Borsaları Birliği) から Ekonomik Repor (経済レポート) が季刊と年刊で公表されている。また、経済活動の中心都市であるイスタンブールの商業会議所から Ekonomik Repor (経済レポート), Monthly Economic Figures, 工業会議所からも工業関係のニュースや統計データが定期的に公表されている。

## 二 トルコの経済政策と工業化

国家経済研究所 (SIS) が推計を加えて作成した長期統計の数字は時代を遡るにしたがって信頼度が下がる。しかし、長期の経済動向を知るためには不可欠な資料であり、経済分析のための多くの手がかりを与えてくれる。ここでは主として SIS が整理し公表した統計資料を利用して、エタティズムによる計画的な経済開発を始動させた 1930 年から、1970 年代末の経済危機の時代を経て、自由主義的な開放政策に踏み切る 80 年代までのおよそ 60 年間のトルコ経済の動向を概観する。この間、政権担当の主体たる政党が頻繁に入れ代わりまた大きな政治変動を引き起こした二度のクーデタがあったが、経済政策の路線は計画経済と自由化を目指す動きとの間を揺れ動いた。しかし、基本的な政策は一貫して工業化におかれ、工業化戦略として国営企業と民間企業の並行的な発展を目指す混合経済体制がとられ、また 1980 年代初めの経済開放政策への移行まで貿易規制や為替管理に象徴される閉鎖型の経済体制のもとで、保護主義的な輸入代替工業化政策がとられた。

### 1 初期工業化とエタティズム (1930 年代)

#### (1) エタティズムの契機

オスマントルコの解体後、国家消滅の危機に直面したトルコはケマル=アタチュルクを指導者に国土回復の「独立戦争」を戦った。その結果、1922 年のローザンヌ条約によって今日の国土を回復し、翌 23 年に共和国として独立し

た。独立後に起草された憲法では、共和主義、人民主義、世俗主義、国民主義、改革主義、エタティズムの6つが国家体制の枠組みとされ、フランス型の国民国家をモデルに国作りが開始された。このうち経済の枠組みとして重要なのはエタティズムであり、国営企業を軸とした計画的な工業化が憲法によってトルコの進む方向とされた。

しかし、この政策理念は独立当初より明確化されていた訳ではない。1924年にイズミールで決議された経済政策の基本方針では、戦後の世界経済のシステムの中で自由主義的な改革を行い民間における企業者精神を高めてこれを国家が保護・育成することが提示されている（Hershlag, 1968）。つまり、自由主義と民間主導がうたわれていたのである。欧米主導の国際的な秩序に従って自由主義経済を採用しようとしたのは、帝国時代の負債を受け継ぎながら荒廃した国土と経済を復興することが当面の課題とならざるを得なかったからだが、独立当初には経済政策のベクトルは自由主義経済に向けられていたのである。

トルコがエタティズムに向きを変えるのは独立国として一応の安定を得た1930年代に入ってからである。しかしこの政策変更にはトルコをめぐる国際的な経済環境の変化も見逃すことができない。その一つが社会主義国ソ連の登場による国際的システムの変化であり、また一つは1929年に始まる世界恐慌である。世界恐慌の影響は、トルコにとっては、先進国の外資導入が期待薄になったことと、輸出が大幅に減少して工業化のチャンスが損なわれたことの2点において大きかったといえる。オスマントルコ帝国の時代、ギリシア人、アルメニア人、ユダヤ人のマイノリティーグループが資本家集団を構成し、貿易、商業、金融の分野で活動していた。しかし、帝国が解体し民族主義的なトルコ共和国が成立するとこれら資本家の多くは国外に流出し、近代トルコの建設は著しい資金不足で始った。このため、近代国家建設に外国資本が期待されたが、世界恐慌によってこれが困難となりしかも逆に外資が引き上げられた。

世界恐慌の影響は貿易の面でとくに大きかった。トルコからの主要な輸出品は、たばこ、乾燥果実などの農産物が額において圧倒的比重を占めていたが、

需要の低下によって輸出が減少し、しかもこうした農産物の価格が大幅に低落した。このため輸出額は激減し、30年代前半の総輸出額は20年代後半と比べて3分の2まで落ち込んだ【資料8-a】。世界恐慌は農産物輸出国であるトルコに農業恐慌として波及したのである。国内市場は縮小した資金調達の手段を失ったことで萌芽期の工業部門もまた打撃を受けた。

他方、恐慌期は先進国のくびきが緩み遅れて工業化を目指した国が独自の政策をとることが可能となった時代である。自由貿易体制の下では、この体制維持が列強の支配の圧力をもって強制された。大戦間期はこの19世紀型のシステムが緩んだ時代であり世界恐慌がその重要な契機をなしたといつてよい。トルコの政策転換は明らかにこうした世界システムの変容する時代的背景において実施された。また先進地域との貿易が発展すればするほど非工業化が進み、貿易の縮小と先進国からの資本移動が停滞する時代は工業化のチャンスであるというG. フランクのシェーマが妥当する時代でもあった。エタティズムが農工の国際的分業と先進地域への経済的な従属を拒否するという意思をもって「独立のプログラム」とも呼ばれた所以もここにあった。類似の政策はイギリスによる保護国化の危機を脱したイランでもとられたが、これもトルコ同様に先進国のくびきが緩んだ時代に對外依存をなるべく避けながら危機を乗り切ろうとする自立的な経済建設の選択であったといえる。

次にトルコのエタティズムについてその具体的内容を示すことにする。

## (2) 国による資本形成

独立のプログラムでは、政府は当初より工業化を目指し1931年には第一次五か年計画が具体化される。この計画の特徴は一つに資本を国内で調達する内部蓄積型の工業化政策であり、とりわけ国家が資本蓄積の主体となって国営企業を軸に工業化をすすめるという点にあった。工業化のための資本の蓄積と具体的な企業の設立が国によって主導されたのである。

経済開発に必要な財政収入としては間接税と直接税それに専売収入がある。1925年に帝国の時代の直接税であるウシュル税が廃され所得税が制度化され



た。しかし、徴収の難しさから実際には財産税が徴収されたが、この額は財政収入の15%前後に過ぎなかったといわれている。このため税収は主として間接税や関税収入それに専売収入といった徴収の容易な方式がとられた。間接税としてはさまざまな物品税と印紙税があり、専売収入は輸入品や砂糖などの消費財の国家専売によって確保された。

しかし、こうした不完全な税制の下では開発に必要な資金の調達に限界があり、19世紀にドイツなどの後進資本主義国が試みたような民間の資金を集中する金融システムを作ることが求められ、国立銀行を設立してここに資金を集中して工業化資金に当てる政策がとられた。具体的には、1933年、シュメル銀行とエティ銀行を設立、この銀行に開発資金と民間の預金を集め、この資金を鉱工業部門に計画的に投資する方式である。シュメル銀行には主として工業部門の企業の設立と経営管理が、またエティ銀行には世界恐慌で外資が撤退した鉱山の開発と経営が担わされた。

表1 シュメル銀行傘下企業の工業生産額に占める割合（1939年、%）

|     |     |       |     |
|-----|-----|-------|-----|
| 綿製品 | 35  | セメント  | 55  |
| 毛織物 | 60  | コークス  | 100 |
| 人絹  | 100 | 銑鉄    | 100 |
| 皮革  | 62  | 過磷酸肥料 | 100 |
| 靴   | 90  | 鋼鉄    | 80  |
| 紙   | 100 | 潤滑油   | 80  |

（出所）Z. Hershlag, Turkey: The Challenge of Growth, Brill, 1968, p. 92

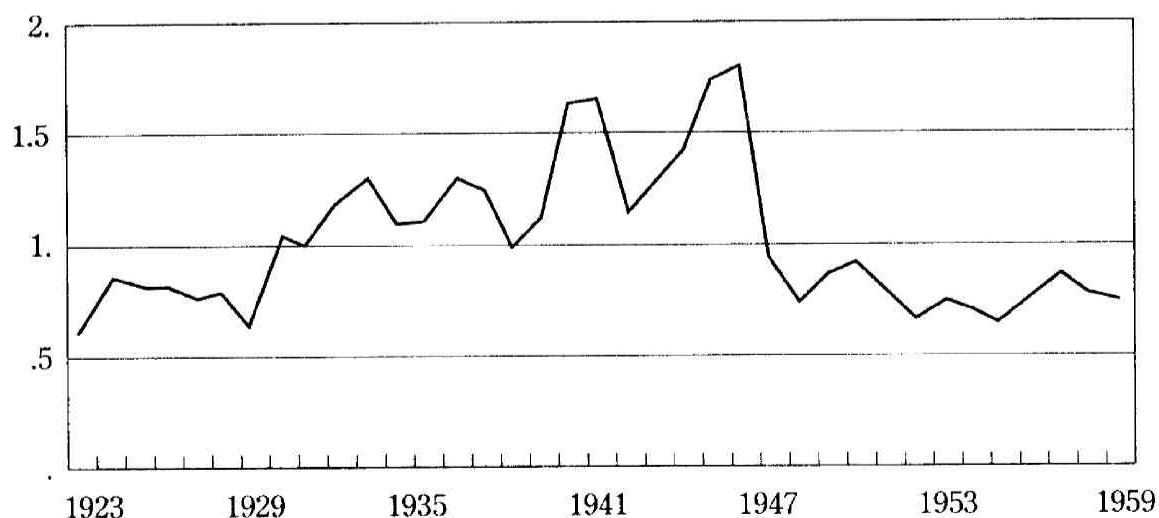
国家主導による開発はとくにインフラと工業化に重点がおかれた。インフラ開発は、鉄道、道路などの建設が国家的事業として、工業化は、国营企業を軸に計画的に進められ、その一方で民間の資本形成が国の金融政策などで支援され、官民複合の工業化が目指された。工業は国营企業が鉄、セメントなどの基礎素材部門と、紙、皮革など農産物加工を中心とした部門において計画的に設立され、関連する工業分野と綿工業などの繊維工業の分野で民間の工業化への波及が期待された。

工業化戦略としてとられたのは国内市場志向の輸入代替工業化である。この戦略は第二次大戦後に多くの途上国で採用されたものだが、トルコの場合、国営企業を柱に計画的に進められた点で特徴がある。これに隣国ソ連の開発計画がモデルとなったことは確かであろう。ソ連の五ヶ年計画は大衆の大いなる犠牲の上に遂行されたという事実がスターリン批判後に明らかにされたが、当時は世界恐慌の大波の中でこの影響を受けることなく躍進する工業化の優れた戦略と映っていたのである。

### (3) 貿易の国家管理

貿易の国家管理は1929年の関税自主権の回復が一つの契機となった。1920年代のトルコは自由貿易体制の下で慢性的な貿易赤字に苦しみ対外債務を膨張させていた。30年代に入ると関税政策によって輸出入の均衡が図られ輸入が規制された。この規制は世界恐慌の影響で輸出が大幅に減少する中で進められたため貿易を大きく縮小させることになった。輸入額でみると20年代から30年代はじめにかけてほぼ半減している。一方、輸出の対輸入比率は、23～29年の年平均73%から、30～39年の110%と黒字基調になった。こうした政策がとられたのは当時の政治的リーダーが経済成長よりも閉鎖型の独立のプログラムの実施を優先させたためと考えられる【資料8-a】。

図1 1923～59年の輸出の対輸入比





要約すれば、エタティズムは民間資本が脆弱でかつ資本と市場を海外に求めることが困難な時代に、国が政策的に国内資源を動員して国営企業を軸に自立的な輸入代替工業化をはかるというものであった。こうした政策は、経済の従属化を拒否するナショナリズム的な側面をもつ一方、世界恐慌期に独立国たる途上国が工業化を進める上で採らざるを得なかった選択でもあったといえる。しかし、まだ独立後多くの年月を経ておらず資本やインフラの欠如した国民国家形成の過渡期にあり、少ない資源を経済の諸部門に分散的総花的に振り向けることは適切ではなく、人口の4分の3を占めていた農業部門は貿易政策や税制を通して国家的な資本蓄積にいわば奉仕する部門として位置づけられた。ちなみに、1930年代には工業の成長率が年間平均11%の成長を示したのに対して、農業は農地が拡大したにも関わらず5%で相対的に停滞し、格差が拡大したことで農業者の間に不満もまた生まれていた【資料2-a】。

## 2 経済の自由化と挫折（1950年代）

エタティズム体制は第二次世界大戦後に至って修正が求められるようになった。エタティズムを支えた社会層は、計画経済によって経済的利益を保証された国営企業の従業員や公務員それにアタチュルクの政治思想の信奉者が多く、体制への批判はこの利益集団を支持基盤とする共和人民党に向けられ、民主化要求という形がとられた。

農業部門の批判はとりわけ富農や地主層からのものである。主たる批判点は戦争で荒廃し開発が必要であった時期に財政支出が工業部門に重点的に振り向けられ、農業はその奉仕者として公平性がはかられなかったことにあったといっていよい。一方、資本家層は保護主義的な経済政策から利益を引き出していたが、アメリカとの関係が強まりマーシャルプランによって多額の援助を得てこれを開発に振り向けていた時代に民間企業の自由な経済活動のチャンスの保証を求めている。これらの要求は民主党によってくみ上げられ、1950年に実施された複数政党制導入後の2回目の国政選挙で、民主党が共和人民党に対する批判票を集めて勝利すると、首相になったメンデレフはそれまでのエタティ

ズムと閉鎖型の経済体制に対し自由化を強める路線をとった。

エタティズム体制は外部からも修正の要求を受けた。これは冷戦構造が国際政治の枠組みとなる1940年代半ばに西側とくにアメリカからのものである。戦後、ソ連が伝統的な南下政策を強めるとこの対抗処置としてトルコはアメリカに接近した。1947年のトルーマン・ドクトリンで地勢学上の重要性が確認されるとトルコはNATOに加盟し軍事的な西側の一員になり、その見返りとしてマーシャルプランの援助を得てヨーロッパ経済協力機構（後のOECD）に加わることができた。マーシャルプランでは1948年以降130億ドルの援助を受け取ったが、こうした西側の戦略のなかで資本主義的発展による社会的な安定化が求められ、民主化と自由化の圧力が強められたのである。

民主党政権は政権獲得後にエタティズムを修正する政策転換を進めた。この主たるものは以下の3点である。

- a 民間企業と農業の重視
- b 国営企業の払い下げによる民営化の促進
- c 貿易の自由化

民主党政権の経済政策は内需拡大策を一つの特徴としていた。国の開発資金は、道路などの交通施設の建設と整備、水力ダム開発と灌漑事業などのインフラ開発、鉄鋼、セメントなどの基幹産業部門、それに農業関連部門へ振り向けられた。その規模は国家予算の枠を30%も越える大きなもので、国内と海外から資金が調達された。また外国資本を呼び込むために規制の解除と便宜供与がはかられ、1947年と54年に外資導入法が施行された。これは当時の途上国の法のなかでは最も規制のない自由なものといわれている。

農業関連部門に対しては財政からの支出の他にマーシャル・プランの援助資金が投入され、灌漑事業、農業信用の拡大、農業の機械化の普及のための補助金、その他の改良事業に運用された。トラクター導入はマーシャル・プランによる援助資金の一重点項目をなしたものであり、トラクター数は1948年の1756台から1955年の40282台まで23倍に増えた【表2】。また、小麦や綿花など主な農産物に対して価格支持政策がとられた。こうした農業重視の政策に

表2 トラクター数の推移

|        |        |
|--------|--------|
| 1948 年 | 1756   |
| 1952 年 | 31415  |
| 1955 年 | 40282  |
| 1960 年 | 42136  |
| 1965 年 | 54668  |
| 1970 年 | 105865 |
| 1975 年 | 243066 |
| 1980 年 | 436369 |
| 1985 年 | 583974 |

表3 農地面積の推移(100 万ヘクタール)

|        |      |
|--------|------|
| 1948 年 | 13.8 |
| 1950 年 | 14.6 |
| 1955 年 | 21.0 |
| 1960 年 | 23.3 |
| 1965 年 | 23.9 |
| 1970 年 | 24.3 |

より農業部門で投資が進み 50 年代に耕作地面積は大幅に拡大した【表3】。トラクター化を契機に未利用地や放牧地の農地化が進み、富農や地主による企業の経営が刺激された。しかし他方で、こうした農業部門への資金の投入は、富農や地主と一般農民との所得格差を拡大させる原因ともなっていた。

一方、工業部門は、1950 年から 8 年間に生産額が実質でほぼ 2 倍に伸びた【資料 2-a】。民主党政権が民間企業のための利益誘導を行ったこともあり、民間部門の成長が相対的に大きく、同期間に製造業製品の出荷額に占める民間部門の割合は 41% から 56% に増えた。もっとも民間部門が国営部門を凌駕したのは繊維工業分野だけであった。繊維工業では 1959 年に民間部門が 67% を占めていた【資料 7】。

貿易額は規制が緩和されたことで急増した。輸入は 1951 年と 52 年に大幅な伸びを示し、伸び率は対前年比でそれぞれ 41%、38%、2 年間でほぼ倍増している【資料 8-a】。とくに開発にともなう投入材の輸入が増え、政府の開発投資に対応した動きを示した。この間、輸出も 38% 伸びたが、これは朝鮮戦争時に農産物の国際的な需要が増大し国際価格が上昇したことが影響した。

経済成長率は、自由化が進み政府や援助による開発資金によって民間の活力が高まったことで 50 年代前半期には高い水準にあり、1950 年は 9.3%、51 年から 53 年までは 12% 前後で推移した。農業部門は、気候の影響を受けて変動がみられたが農地面積が急増し農業投資が活発化したこと、また価格支持政策がとられたことで成長率が高く、工業部門も 57 年までは年 10% 前後の成長

率を維持していた。

しかし、50年代後半になると状況は悪化した。過剰な支出によって財政赤字が拡大し、輸出も朝鮮戦争後の国際的な農産物価格の下落が影響して54年には大幅に減少したことが影響して成長率は大幅に低下した【資料8-a】。このため、政府の対外債務が増大し、外貨危機に陥ったことで輸入規制を余儀なくされ、物不足が深刻化して物価が上昇した。インフレ率は56年以降は年間15%を越えトルコ通貨の価値は下落した。対ドル為替レートは国内産業の保護を目的に政策的に高く維持されていた。しかし、輸出が停滞して経常収支の赤字が慢性化して対外債務が増大したことでレートを維持することが困難となり、トルコの通貨であるリラはそれまで1\$=2.8リラで維持されてきたが、1958年には一気に9.0リラに大幅に切り下げられた【資料15】。また1959年には4億ドル以上の債務の返済が繰り延べられた。

1950年代の民主党政権の時代は、エタティズムの計画経済期とは対照的に、「経済政策にプランがなくバランスの欠けた形で成長した時代」と言われている。自由化と過剰な投資により工業化は進み農業も発展したが、その後半期には債務の拡大と外貨危機によって行きづまった。また、民営化が予定されていたが、共和人民党の支持者や国営企業の労働者階級の強い反発があり実現できなかった。エタティズムの計画経済は修正されたものの、国営企業を機軸とする構造は基本的に変わらなかったといえる。

### 3 エタティズムへの回帰（1960, 70年代）

1960年5月、クーデタが起こり民主党政権が崩壊する。メンデレス政権がアメリカに過度に接近し独裁化を強めたこと、またアタチュルクの政治理念を踏襲した共和人民党を抑圧し大衆運動を弾圧したこと、これがアタチュルク主義者の多い軍部の反感をかった。しかし、この背景には経済の停滞とインフレの問題があった。1950年代には都市化が急速に進んだが、都市にはこの人口を吸収するだけの雇用が生まれず失業問題が深刻化しており、こうした社会構造の変化が社会不安の要因となっていた【資料4】。

クーデタ後の1961年、軍が指導権を握っていた国民統一委員会によって民主化、経済開発、安定成長などの条項を盛り込んだ新憲法が起草され、総選挙を通して民政が回復した。この時代の経済の基本方針はしたがって憲法に則ったものであり、経済・社会・文化の全体に関わる包括的な発展を計画的に目指す15年の長期構想が立てられ、国家計画機構（SPO）がこの実現の機関として組織された。この長期構想には、貿易収支の均衡化、農地改革、雇用問題の解決、所得格差の是正など、50年代にトルコ社会が抱えた問題の解決が課題とされた。その基調をなしたのはアタチュルクの時代におけるエタティズムの理念であり、工業化ドライブによる計画的な経済発展であった。つまり、混合経済体制のもとで閉鎖型の輸入代替工業化を開発の戦略とするというものであり、固定資本投資の50%を公的部門に振り向けることとされた。

しかし、このいわばエタティズム体制への回帰の構想は必ずしも遵守された訳ではない。60年代に長期に政権にあった公正党は50年代の民主党の系譜を引き、憲法上の制約を受けながらも民間の資本家層や農村の中上層の利害を経済政策に反映させ自由化を志向していた。このため具体的な政策と憲法による開発構想との間にずれが生じ、しばしば政治的な読み替えが行われた。たとえば、農地改革は農業部門への投資を促す農業改革にすり替えられ、また安定成長の経済政策は財政支出を増やして国内消費を刺激する内需拡大政策に移し替えられた。農業部門でみると、農業の機械化、化学肥料の普及、品種改良、灌漑水利事業が推進されたが、これは農民一般の利益というよりも企業的農業へ転換を進めていた富農や地主の利害と一致し、農業関連の工業をも刺激するものであった。

低金利によって民間投資の誘導もはかられた。インフレ率を換算した実質金利をみるときわめて低く年によってはマイナスとなっている【資料18】。低金利は高い利潤率を保証し、わずかな自己資本で資本形成を可能としたため「資金が5%前後で新企業が設立できた」ともいわれた（E. Turkan, p. 52）。

国内的な競争の規制も工業化を進める政策の一つとなった。市場では輸入規制によって外国製品との厳しい競争を回避できたが、国内的にも独占の供与や



価格の管理によって保護された。

また、外資の導入がはかられた。1954年に制定された外資導入促進法は規制が比較的弱く、食品、繊維、石油化学、家電、自動車などの部門で資本の導入が進んだ。66年にはフォード資本と提携してトルコで初めて国産車の生産が開始され、家電工業でも外資が導入された。しかし、閉鎖経済期には外資にとってトルコはあまり魅力がなく1979年までに認可されたのはわずかに2.3億ドルに過ぎない。開放政策がとられた1980年から88年までに認可された額が29億ドルだったから規模が非常に小さかったことがわかる。

貿易においては保護主義的であり、貿易収支の均衡をはかりながら輸入代替工業化を推進する目的から、関税政策や輸入規制また輸入割当制などで直接的に制限を加えた。輸出はこれを奨励しながら輸入は規制した。工業化に必要な資本財や原料の輸入は優遇された。為替は1980年まで固定相場制がとられ(1980～89年はペック制、89年以降は変動相場制)、リラの対ドル為替レートは実体よりも高く設定され、工業化に必要な資本財や原料の安価な輸入の道を開いた。その一方で、消費財に対しては国内の工業製品と競合する製品の輸入が禁止的に制限された。ちなみに工業製品の輸入関税率は品目によって差が大きいが1970年代には30%前後であった【資料16】。

15年の長期構想では貿易の均衡が目指された。しかし、貿易赤字は6,70年代を通してほとんど回復することがなかった。これは、後にみるように耐久消費財工業が発展するに伴い原料や中間財の輸入が増大したことにより、また石油危機以降は石油代金が跳ね上がったことの影響も大きかった。輸入原料の3分の2以上は石油で占められ、これが発展途上国一般と同様に経常収支の赤字の原因の一つとなっていた。

#### 4 消費構造の変化と輸入代替工業化の問題点

トルコでは輸入代替工業化が1980年まで一貫して工業化の基本的な戦略とされたが、これは中東随一の農業国でありまた鉱物資源に恵まれているという条件の下で可能であったといってもよい。1952年から57年の6年間でみると、

工業部門には総投資の 21.7% が振り向けられ工業生産は年平均 12.5% の高い成長率を示した。主要な投資先となった分野は鉄やセメントの素材工業と砂糖、綿製品、毛織物など農産物を原料とする工業であり、原料自給的性格の強い分野の発展が促された。

この点は 1960 年代も基本的に変りがない。農産物加工と工芸作物を原料とする工業、品目でいえば、繊維、製粉、砂糖、食用油、茶、たばこ、パスタ、酒類などの出荷額が高く、工業製品出荷額全体の 66% を占めていた。つまり、農産物を主とした原料自給型、国内市場依存型の工業を特徴としていたのである【資料 6】。

1965 年の時点でみると、繊維と衣類は製造業付加価値の 18% を占めていたが、原料となる綿花と羊毛はいずれも国内で自給できた。綿花は地中海性気候の沿岸地方に特産地が広がり、国内市場をまかないさらに最大の輸出品でもあった。これは毛織物やじゅうたんの原料である羊毛についても同様である。化学、機械、電気の工業分野の成長によって農産物を原料とする軽工業のシェアは徐々に低下するが【資料 6】、主要な工業分野であったことに変わりはない。

1963 年から 15 年の長期開発構想では、期間を分け、第一次（1963-67）、第二次（1968-72）、第三次（1973-77）の中期計画にもとづいて実施された。このいずれも計画でも工業化が開発の中心におかれたが、その特徴をみると、第一次 5 か年計画では国内市場向けの消費財工業とこれに関連する中間財と資本財生産の分野に重点がおかれ、第二次五か年計画以降では比重が重化学工業にシフトし、これらの分野の輸入代替が目指されている。

この工業化の戦略上の変化は国内における消費構造の変化を反映している。1960 年代から 70 年代にかけて国民一人当たりの所得がかなり上昇しており、所得の上昇によって国民の消費性向に変化がみられ、大衆消費財に対して耐久消費財や化学製品への需要が増大したということである。国民一人当りの実質所得を 1950 年との対比でみると、67 年には 1.7 倍、80 年には 2.3 倍となっており【資料 1】、所得の上昇が消費構造を変えこれがまた工業部門の構成に影

響を与え、このため開発戦略も軽工業部門の大衆消費財から重化学工業部門に重点を移したということである。

工業製品の出荷額の分野別シェアの推移をみると、1960年には食品工業は43.2%、繊維工業は22.4%であったが、1980年にはそれぞれ20.0%、13.0%に低下し、代って化学、機械、金属などの部門が大きく伸びている【表4】。生産財では鉄鋼製品やセメントに加えて化学肥料などの消費が増え生産比率が高まり、原料自給的な大衆消費財の生産比率が低下した。閉鎖経済の下の特ロコでは工業製品の輸出比率が小さく、このため工業製品にとっての市場は国内のシェアが圧倒的であり、それゆえに工業部門の構成は国民の消費性向に直接影響を受けたのである。第二次五か年計画以降にこの分野の輸入代替工業化が主要な目標とされたのはこうした需要の変化への対応という意味があり、中間財や資本財の生産拡大がとくに国営工業において推進され、国営企業が中間財と資本財、民間企業が耐久消費財を生産をするという分業関係がみられるようになった。

表4 工業製品の出荷額の構成

|            | 1960年 | 1970年 | 1980年 |
|------------|-------|-------|-------|
| 農産物加工品・食品  | 43.2  | 30.9  | 20.0  |
| 繊維         | 22.4  | 15.3  | 12.9  |
| 化学         | 11.0  | 17.2  | 31.3  |
| 金属         | 7.6   | 9.5   | 10.1  |
| 金属製品・機械・輸送 | 7.5   | 14.4  | 16.2  |

(注)「化学」は石油関連、セラミック、肥料、セメント、ガラス、皮革などを含む。

(出所) Statistical Indicators 1923-91, pp. 210-220.

耐久消費財の中で、自動車と家電製品は1960年代から消費が増え70年代になると一般家庭に普及し始める。しかし、これらの工業は高い技術の蓄積の上に成り立つため先進国からの技術移転が求められる。部品などの中間財を国内で自給するだけの技術の移転が行わなければ、これらを輸入によってまかなう組み立て工業的性格をもたざるを得ない。政府もその開発計画において工業部門内部の連関を重視し、消費財、中間財、資本財の面でバランスをとる工業化



戦略がとられた。しかしながら、現実には主に国営企業が担った中間財と資本財生産が大きく遅れをとった。その理由は、一つに、政府は外資の導入を積極的に進めたが外資の多くは消費財生産部門と石油化学また第三次産業に集中し、輸入代替に欠かせない中間財、資本財生産工業での技術移転が進まなかったことである。また一つには、政府の保護政策と国内市場の独占さらに国営企業においては経営の非効率性により技術の蓄積がおくれたことである。工業製品の市場をみると国内市場は保護政策によって護られており、国内占有率では1965年が94.5%、70年が91.7%、75年が95.1%ときわめて高く、自動車や家電などの耐久消費財は製品の輸入が規制されていたから市場は独占的であった。

このため、耐久消費財の生産増加は原料や部品などの中間財の輸入を大幅に増加させる結果を招いた。とくに外資との合併によって進められたモンタージュ工業（その中心は家電と自動車）の生産増加は、これを支える資本財や中間財の国内における生産が遅れたことで輸入を増加させ、輸入代替工業化による工業化の展開が輸入をむしろ大幅に増大させるという問題を発生させた。これは多くの発展途上国の経験したことであるが、トルコの場合は徹底した保護主義が技術革新を抑制したという側面が強く、競争の欠如によって国民所得の上昇による消費構造の変化に対応できなかったという問題があった。

中間財や原料の輸入増は輸入額全体を膨張させた。言うまでもなく1974年以降の輸入の増大にはオイルショックによる石油価格の高騰が影響している。1960年代には原油輸入額は輸入総額の5%前後に過ぎなかったが、オイルショック後は20%前後に急増している【資料13】。しかし、工業部門の構造的な側面で言えば、消費構造の変化による耐久消費財の需要の増加がこの時期の輸入増の理由であったといってもよい。資本財とともに中間財や原料の投入財の輸入が大幅に伸び輸入額を押しあげたのである【資料13】。

一方、輸出は農産物のシェアが徐々に低下傾向を示したものの1978年においてなお輸出全体の67%を占めていた【資料9】。また輸出の27%を占める工業製品もその94%までが繊維製品であった。繊維を除くと工業製品の輸

出力は著しく小さかったということである。輸入が大幅に増加したにも関わらず輸出は停滞し、この結果、貿易は赤字を拡大することになった。とくに1974年から80年までの7年間は輸入額は輸出額の2倍以上になっている。赤字はその一部が急増した海外出稼ぎの送金で補われたが、経常収支の赤字は輸出額に匹敵する額を毎年記録した【資料8-b】。

経常収支の赤字の構造は対外債務を累積させ、1970年代末には債務額は輸出額の6倍以上に及びトルコは重債務国化した。このため外貨不足が深刻化し、政府は輸入規制を強めて貿易収支の回復を図らなければならない状況に立ち至り【資料8-b】、消費財はもとより資本財や中間財の輸入も抑制された。このため、工業生産は停滞し、もの不足が深刻化してインフレが加速された。卸売り物価の上昇率をみると、1970年代前半で20%前後であったが、78年には54%、79年、80年にはそれぞれ75%、90%と大幅に高まり、またこの2年間の実質経済成長率はマイナスを記録した。とりわけ工業部門はそれぞれ-5.0%、-3.7%と大幅な落ち込みをみせた。

表5 1970年代後半期の経済指標

|       | GNP 成長率 | 物価上昇率<br>(卸売物価) | 経常収支<br>(100万\$) | 対外債務<br>(100万\$) |
|-------|---------|-----------------|------------------|------------------|
| 1975年 | 6.3     | 10.2            | -1648            | 4480             |
| 1976年 | 9.3     | 15.6            | -2029            | 6889             |
| 1977年 | 3.0     | 24.1            | -3140            | 10818            |
| 1978年 | 1.4     | 52.6            | -1268            | 13794            |
| 1979年 | -0.7    | 64.0            | -1413            | 13604            |
| 1980年 | -2.3    | 107.3           | -3408            | 16227            |

したがって、1970年代末のトルコの経済危機には、輸入代替工業化戦略による閉鎖型経済がもつ構造的矛盾が露呈したものといってよい。国民所得の上昇にともなう消費構造の高度化に工業化が対応できなかったということである。また、閉鎖型の経済政策の一つの特徴である保護主義のもつ欠陥も露呈した。競争の排除と工業化のための様々な優遇措置によって工業部門には高い利益率が保証されたが、競争の原理が機能せず、非効率で競争力の弱い脆弱な工

業部門を発展させ、このことが国内の原料自給型の軽工業から重工業にシフトする時点で、矛盾を析出させることになったのである。

## 5 経済開放政策の行方

以上からわかるように、1970年代末の経済危機はエタティズム体制のもつ構造に起因し一過性のものではなかった。ここで言うトルコのエタティズムは単に混合経済を指すのではなく、輸入代替工業化とこの枠組みをなす閉鎖型の経済の全体を包摂する体制そのものであり、危機に際して国の外と内からこの体制への修正の圧力がかけられた。

外からの主たる圧力はIMFの構造調整の圧力である。債務の返済繰り延べの要求に対してIMFがトルコに求めたのは国営企業の民営化、賃金引き下げ、財政支出の縮小、それに市場の開放といったエタティズム体制を根本から揺るがす内容であった。一方、国内的には経済危機にともなう政治的社会的な不安の解決に出勤した軍の要求である。クーデタは混乱の沈静化を目的としていたが、軍制下で「経済安定化プログラム」が具体化されており、政治的安定を目的とした改革が求められていたといっていよい。このプログラムではインフレの抑制、貿易収支の改善など当面の経済問題の解決と自由化が示されていた。民政に移行した83年、首相に就任したオザルは閉塞状態からの脱却を経済の自由化によって進めようとするさらに一歩進んだ積極的な政策を推し進めた。個々の検討は割愛するが、以下でその主要なものを列挙する。

- a 財やサービスの価格の自由化
- b 銀行利子の自由化
- c 為替管理制度の廃止と貿易制限の緩和
- d 変動相場制への移行
- e 国営企業の民営化促進
- f 外資導入の奨励

こうした経済開放政策へ舵を向けて以降輸出は大幅に伸びた。輸出額の対GNPでみると、1970年代は3%前後に過ぎなかったが、開放政策へ移行し

て後に上昇し、1980年代半ばには10%となった。この間、貿易額は実質5倍に伸びている。輸出品目もそれまで農産物中心であったが鉄鋼製品や衣料・繊維など工業製品の比重が高まった。一方、輸入は輸出以上に伸びた。これは、一つに資本財や中間財の輸入が増えたことに、また一つはかつて禁止的に規制されていた消費財の輸入が自由化されたことによる。このため、貿易収支は好転せずむしろ悪化して、累積債務残高は93年に670億ドルを越え、返済の繰り延べ問題から総需要を抑制する緊縮政策を求めるIMFの勧告を受け入れて再建をはかるという厳しい状況におかれた【資料8-b】。

90年代はじめ、トルコのエコノミストの間で韓国への関心が強まり、トルコと韓国の経済を比較した本が出版された。この主たる関心事は経済開放政策に転換して10年が経過しながら、インフレと累積債務に苦しんでいるトルコの経済を、類似の政策を取りながら高度成長を続けた韓国と比較検討することで出口を探ることにあつたと思われる。

表6 トルコと韓国における国民一人当たりGDPの推移（\$）

|     | 1962年 | 1970年 | 1979年 | 1989年 |
|-----|-------|-------|-------|-------|
| トルコ | 221   | 523   | 1837  | 2005  |
| 韓国  | 70    | 250   | 1480  | 4999  |

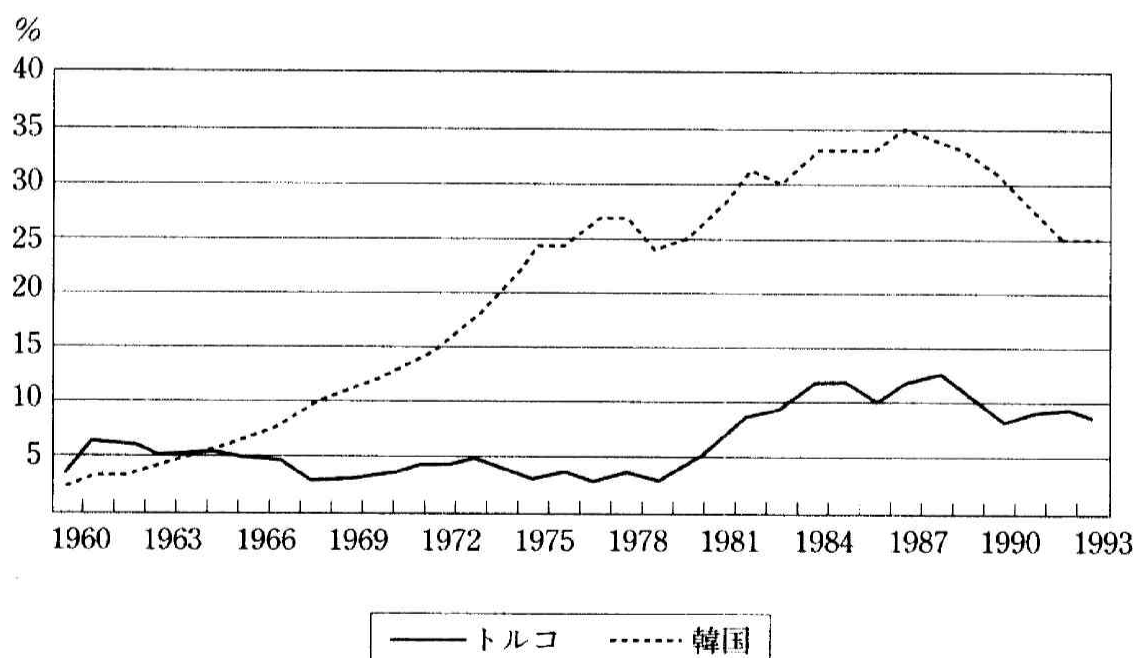
表7 トルコと韓国における輸出額の推移（億ドル）

|     | 1962年 | 1970年 | 1989年 | 1989年 |
|-----|-------|-------|-------|-------|
| トルコ | 3.5   | 5.9   | 29    | 116   |
| 韓国  | 0.4   | 8.4   | 175   | 623   |

1960年代半ばに時点で見ると、この2国は工業化を進める上で比較的似た条件にあつたといつてよい。人口はいずれも3000万人程度で、原料、市場、労働力などの点で工業化の基盤となる農業部門は高い潜在力をもっていた。また、国際的な環境も類似し、冷戦下、西側の対共産圏の重要な軍事拠点として多くの援助を引き出していた。ただ、国民一人当たりの所得と輸出額ではトルコの方がいくぶん高い水準にあつた。

しかし、70年代に入ると、経済成長率で大きな差が開いた。国民一人当たりの所得では韓国が80年代はじめにトルコに追いつき、89年には2.5倍まで差が開いた。この傾向は輸出額ではさらに顕著であり、韓国の輸出額は1955年にトルコの9分の1程度に過ぎなかったものが、60年代半ばにはトルコを追い越し、輸出志向の工業化が軌道に乗った1970年代になると格差は大きく開いた。輸出の対GNP比でみると、韓国では60年代はじめがわずかに3%前後であったのが70年代には25%前後に大きく上昇し、輸出力がGNPの牽引力をなした。しかし、トルコでは70年代に3%前後と小さく、経済開放政策に転換した80年代になってようやく10%前後に達している【図2】。開放政策への移行の時期的なずれ、すなわちトルコが韓国より10年以上遅れたというタイムラグが経済発展の時期的なずれとなり、遅れたトルコでは韓国ほどに順調に輸出もGNPも成長させなかったということである（G. Capoglu, 1992）。

図2 輸出の対GDP比率の推移（トルコと韓国）



もっとも韓国は発展途上国のなかで例外的に高い経済成長率を実現した国であり、この比較をもってトルコの工業化の停滞を論じることはできない。製造

表8 トルコの輸出地域（地域別シェア％）

|         | 1985 年 | 1990 年 |
|---------|--------|--------|
| OECD 諸国 | 51.5   | 68.0   |
| 内 EC    | 40.2   | 53.2   |
| 中東諸国    | 42.8   | 17.9   |

業の付加価値額は 1965 年から 80 年の間に実質で 3 倍に増え、GNP に占める鉱工業部門のシェアも 15.7% から 20.6% へと高まっている【資料 2-b】。しかし、工業力と輸出力には大きな差があったのである。

韓国が経済開放政策によって工業化に成功した理由として、大市場の存在、資本の導入と技術移転の条件がしばしば論じられてきた。市場として北アメリカ、資本と技術では日本とアメリカの役割が強調されたのである。この点ではトルコも似た条件にあった。トルコにとっての市場は近接した EC と中東産油国それにアメリカであり、とくに EC は輸出の半分以上を占めていた。資本の導入と技術移転についても決して悪い条件下にあった訳ではない。しかし、市場という点では EC は域内にトルコと競合する国が存在したことから韓国にとってのアメリカのように開放されていなかった。このためトルコは EC 加盟を政治的な最重要課題として努力してきたが未だに実現していない。

国内的にも解決すべき問題を多く抱えており、その主要な点を以下に羅列する。

#### a エタティズムのもつ問題点

計画経済と保護主義が長く続いたため、経済開放政策へ転換した後も工業部門は対外的に競争力の弱い体質を残してきた。また肥大化した公的部門は合理化を望まない利害集団として強い政治的影響力をもっているために競争原理が導入されず、組織の硬直化を招いている。この点に関してはトルコの政治的土壌とも関係がある。80 年代、多党化が進み複数政党による連合政権が参加政党を変えながら続き、財政支出のばらまきによって大衆の支持を取りつけるポピュリズム的政治風土が生まれ、これが合理的な経済政策を妨げた。一例を挙げると、公務員や国営企業の従業員が 50 歳で退職した場合、年金として退職時の 9 割近くが生涯保証された。また資本家層の要求に答える形で開発路線を



継続して過剰な投資が行われてきた。こうした利害集団への政治的対応によって、財政収入の規模を大きく越えた支出が恒常化してインフレも慢性化した。

#### b 工業部門の技術的遅れ

トルコの財閥企業は外資との合併による工業部門を抱えているが、これら企業の多くが工業製品の自給化に興味をもっていない。所得の増大によって家電、自動車などの耐久消費財の需要が高まったが、国内生産は組立工業的性格から脱していない。自給化の遅れは、一つにはトルコの重化学工業における輸出力を脆弱なものとしているが、また一つは資本財とともに中間財や原料の輸入を増やし、対外債務を膨張させる主要な原因となっている。1990年代半ばにおいてもトルコの輸出は繊維関係の製品が圧倒的な比重を占めているのである【資料10】。

### 三 輸入代替工業化と農業

#### 1 トルコ農業の生産力

輸入代替工業化政策は、資本、労働力、市場の諸側面で農業部門に多くを依存する工業化の戦略であり、一般に農業生産基盤のすぐれた国で採用されてきた。この点でトルコは恵まれた条件をもつ国であるといつてよい。国土は日本の約2倍の面積があり、農地率は高く1990年の時点で33%であった。しかも中東の中では降水量が比較的多く、灌漑水利の条件にも恵まれている。農業部門の総人口やGNPに占めるシェアは1980年代に入って急速に低下しているが、1950年の時点でみると人口で75%、GNPで41%のシェアをもち【資料2-b, 4】、その後、輸入代替工業化を戦略としていた6,70年代においても比較的高い数値を維持してきた。主な栽培作物は、小麦、大麦、トウモロコシといった食糧作物の他に、伝統的な工芸作物である綿花、たばこ、ひまわり、砂糖だいこんなどの栽培が盛んである。これらはトルコの工業化戦略の一つの柱をなした国内農産物を原料とする工業分野との関係においても重要な作物であった。

農業生産力をみると、第二次世界大戦後に大いに高まりをみせた。農地面積

は戦後10年ほどの間に倍増したが【表3】、きっかけとなったのはマーシャル・プランによる援助と民主党の農業重視の政策である。援助資金はその多くが農業部門に振り向けられ国の農業重視の政策に支えられトラクターの導入などに使われた。この結果、労働生産性が上昇し、それまで未利用地や牧草地であった土地の耕作地化が一挙に進んだ。同様の現象はシリアなどの東アラブでもみられたが、トルコでは耕地化は1950年代半ばにはやくも限界地に達した。ただ、トラクターは一般に地主や富農層によって導入され、大規模な農場経営の発展に寄与したものの当時は中小の農家に影響を及ぼすことは少なく、農村における貧富の格差を拡大させた。1970年代になるとトラクターは中規模の農家でも利用されるようになり、村の富農や都市の商人が収穫作業などを請負う賃耕が一般化した。

農業生産量に関する統計は推計によるところが多いが、これに依拠して小麦の生産量をみると、1950年から1980年までの30年間に4.3倍に伸びている。このうち、1950年から55年までの5年間の伸びが大きく1.8倍となっている。この間、栽培地面積も1.6倍に増えているから、土地生産性の伸びは微々たるものであった【図3、4】。続く1955年から80年までの間では生産量の伸びは2.4倍になった。この間、栽培地面積の伸びは1.3倍であったから、土地生産性は1.9倍に上昇したことになる。つまり、50年代前半までの生産の伸びがもっぱら作付け地の拡大にともなうものであったのに対して、1960年

図3 小麦と大麦の生産量の推移

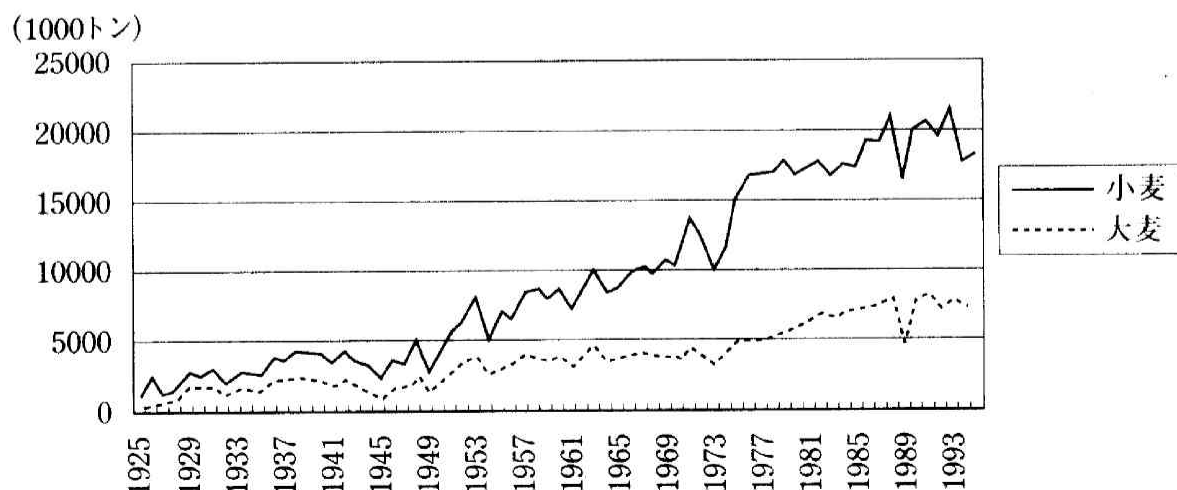




図 4 小麦と大麦の栽培面積の推移

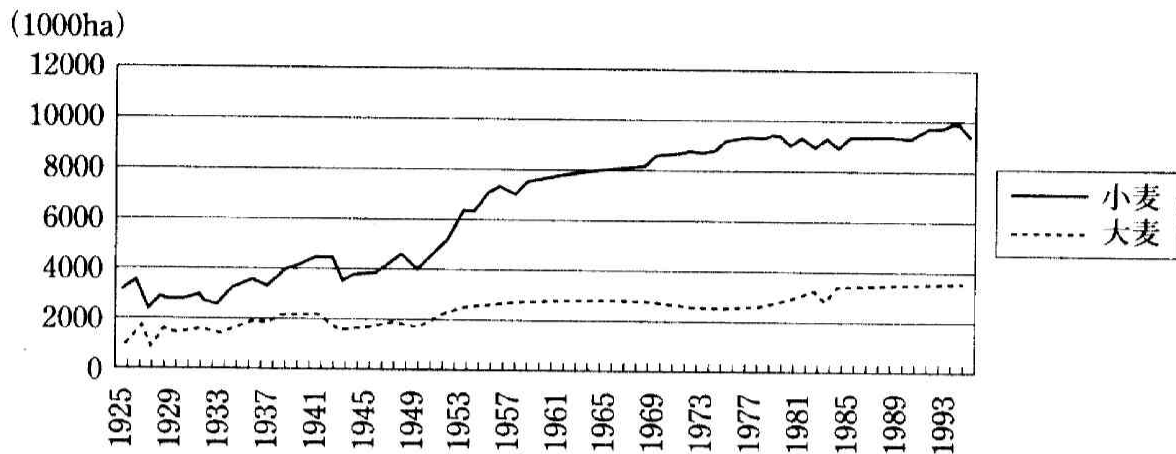


表 9 化学肥料の消費量 (1000 トン)

|        |      |
|--------|------|
| 1962 年 | 295  |
| 1967 年 | 1533 |
| 1972 年 | 3300 |
| 1977 年 | 6577 |
| 1982 年 | 7451 |
| 1990 年 | 8069 |

(出所) N. Kuyucuklu, p. 292

表 10 バラージ灌漑による灌漑農地面積の推移 (1000 ヘクタール)

|        |      |
|--------|------|
| 1936 年 | 1110 |
| 1950 年 | 1263 |
| 1960 年 | 1318 |
| 1970 年 | 1939 |
| 1975 年 | 2391 |
| 1987 年 | 2650 |

(出所) S. Hic, pp. 45-6

代に入ってから、化学肥料の普及と灌漑農地化の進展【表 9, 10】、緑の革命による高収量品種の普及などによる土地生産性の上昇に起因していた。このうち化学肥料は 1950 年代はじめから徐々に使われ出しているが 60 年代半ばまで普及率はあまり高くなかった。その後は、政府の普及活動で 70 年代半ばにはほぼ全面的な普及をみることになり消費が大幅に拡大した。

灌漑水利の開発による灌漑農地化も 60 年代以降進展した。国家事業として

は多目的ダムや水路も建設による農業開発が進み、民間によるスプリンクラーの導入も進んだ。灌漑地化は単収を上昇させるとともに輪作地化を可能とした。とくに乾季である夏季における商品作物の栽培を広げた。

農業の集約化に伴う注目すべき点は、工業原料となる工芸作物の生産量の伸びである。とくに綿花、砂糖だいこん、ヒマワリの伸びが高い【図5, 6】。綿花はすでに19世紀半ば以降、地中海やエーゲ海の沿岸部に主産地が形成され、共和国成立以降は綿工業の原料として生産を増大させていたが、生産量は1948年から71年までに9倍以上に増えている。その第一期は1940年代末から50年代初めであり、綿花の国際価格の上昇が刺激となって栽培地面積はほぼ3倍に増えた【図7】。その後、価格が低落したことで生産は停滞するが、60年代に入り輸出需要と綿業の発展による国内需要の拡大で生産量は再び急増した。この時期の生産増はもっぱら化学肥料の投入、灌漑地化の進展、それに品種改良により、品種では収量の高いアップランド種がシリアやアメリカから導入され普及した。砂糖だいこんも同様に砂糖工業の発展と結びついて生産地を拡大した。砂糖工場は1926年から65年までに18の工場が設立され、輸入代替工業の優先工業分野として位置づけられてきた。砂糖工業は原料立地型であることから工場建設を契機に地域の砂糖だいこん生産が促され、協同組合の組織を通して主産地が形成された。いずれもトルコの工業化を特徴づけた原料自給型の工業化政策との関連で奨励された作物である。

図5 綿花・たばこ・ひまわりの生産量の推移

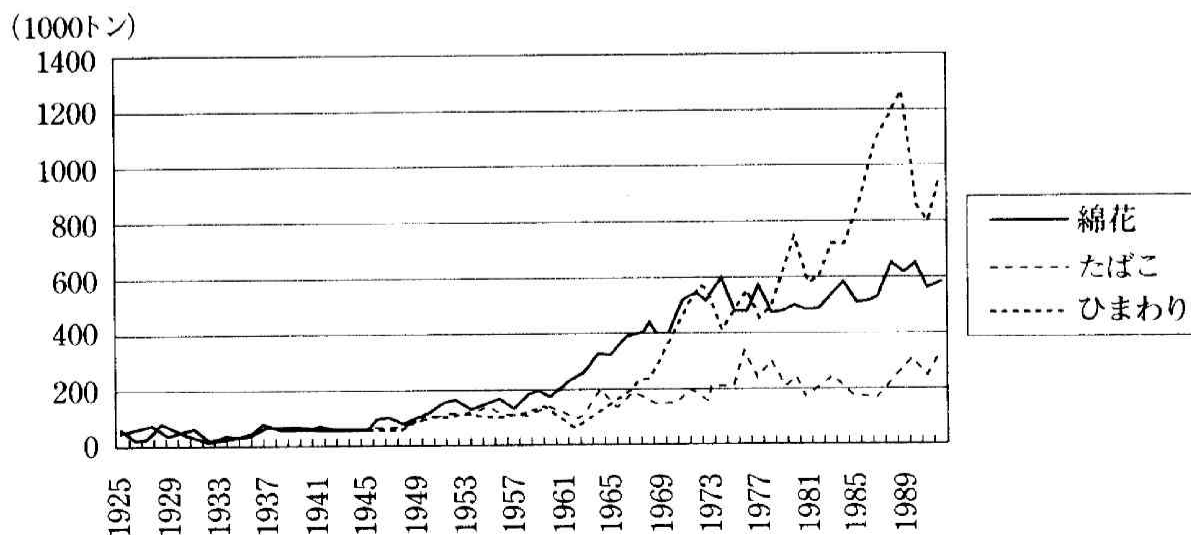


図6 砂糖だいこんの生産量の推移

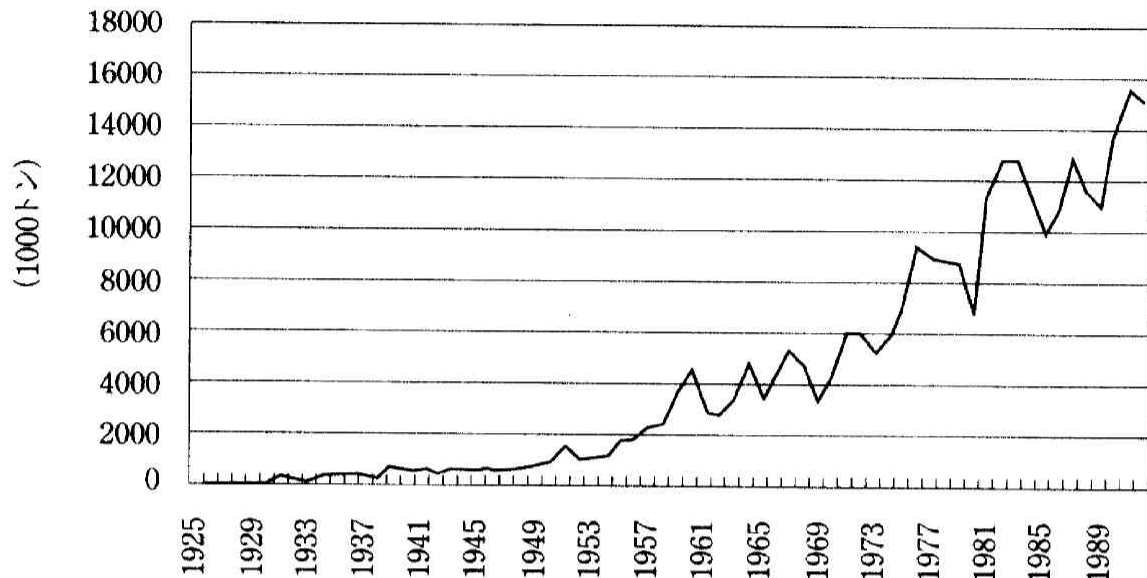
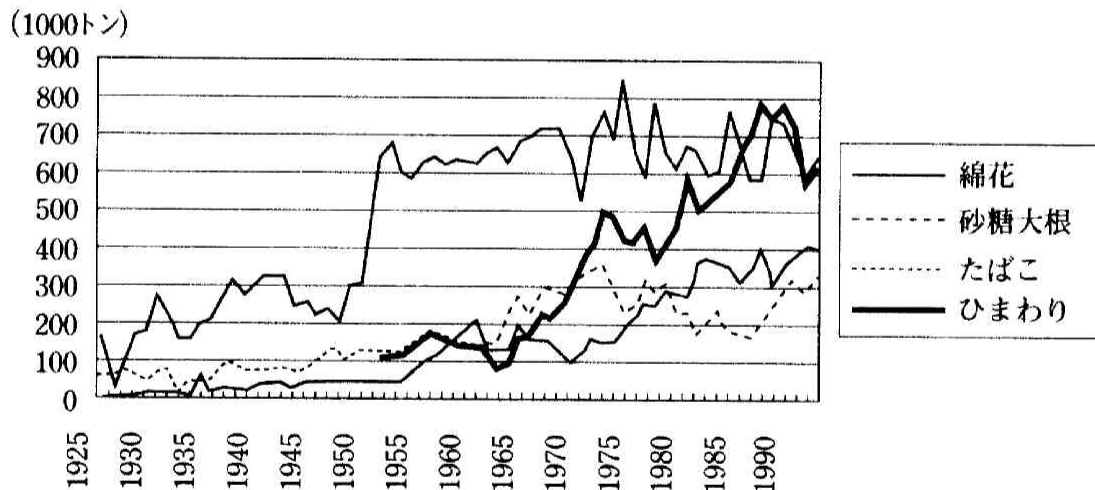


図7 主たる商品作物の栽培面積の推移



## 2 輸入代替工業化政策と農業部門

以上のようにトルコは農業生産の高い潜在力を持ち農業部門への投資や技術革新を通して生産力を発展させたが、次に、農業部門は輸入代替工業化政策との関係でどのように位置づけられてきたのか、簡単にまとめてみる。

### (1) 工業化の資金の源泉

1930年代の工業化の初発の段階では、農業部門は徴税や農産物価格政策をとおして工業化資金の調達源泉とされた。すでに述べたように、共和国として独立した時点でギリシア人やアルメニア人など資本家層をなしていたマイノリティ集団が国外に流出し、工業化資金を国家が調達する必要性が生じて、農業部門に強制貯蓄が求められ、徴税や価格政策はその手段とされた。

## (2) 食糧の自給

トルコの人口は、1955年に2386万人であったが、90年にはその2.4倍の5610万人に増加した。この増加分は人口移動によって都市に移動し、農村人口の伸びは鈍く1980年以降はむしろ減少している。一方、当該期間における小麦の生産は2.9倍に増加し、都市の人口増に対して十分な食糧を供給するだけの能力を農業はもち続けていた。高い人口増加率に食糧生産が追いつかず、食糧輸入の増加が工業化に必要な資本財や原料輸入を圧迫するという悪循環を招いてきた中東の多くの非産油国とは対照的である。

## (3) 外貨獲得の手段

輸入代替工業化の戦略をとった他の中東諸国と比べてトルコがとくに恵まれていた点は、農業が十分な輸出力をもっていたことである。輸出総額に占める農産品の比重は自由化政策がとられた80年代に入って徐々に低下しているものの、1970年頃までは75%以上を占め、農業は外貨獲得の主要な手段であった。その内訳をみると、綿花、たばこ、ヘーゼルナッツ、干しぶどうで63年には輸出総額の70%、75年においても54%を占めていた。工業部門が必要とする資本財や中間財の輸入の対価として農産物輸出が果たした役割は大きかったのである。

## (4) 工業部門への原料の供給

農産物加工・食品工業のうち、砂糖工業はアタチュルク時代にはセメントとともに重要な戦略分野をなしていた。その他、製粉業、パスタ工業、食糧油工業、繊維と衣料工業、皮革工業、さらに木材関連工業、製紙工業など比較的高度な加工技術を要する工業が輸入代替工業として発展した。このうち食品と繊維の出荷額は1960年には製造業の出荷額全体の65.6%を占めていた。ただ、

この割合は耐久消費財工業の発展とともに徐々に低下し、1980年代には30～35%で推移した【資料6】。

#### (5) 市場としての農業部門

総人口に占める農村人口の割合は1970年の時点でなお6割を越えていたが、農村住民の所得水準は都市住民の4分の1以下と低く（O. Aresvik, p. 5）、消費財の市場としては都市よりも小さかった。しかし、農業の近代化が進む過程で化学肥料やトラクターなどの農業機械の需要が増え生産財の消費を増大させた。農業の生産財工業は輸入代替工業化政策の保護された一分野をなした。たとえば、化学肥料は国の普及事業や特別融資制度、補助金による低価格政策によって普及が進み、関連する工業部門の生産を刺激した。制度金融は農民金融の半分ほどを占めていたに過ぎないが、農民個人と協同組合に対して低利の金融が制度化された。例えば、1970年頃には化学肥料は80%がクレジットで購入された（Aresvik, p. 81）。化学肥料の国内生産は1968年の時点で需要の4分の1程度をカバーするに過ぎなかったが、1980年代にはほぼ自給を達成した。農業機械についても同様である。トラクターは1970年頃に耕地のほぼ3分の1で、80年代末には9割前後で利用された。トラクター生産は早くから始まり自給率は当初より高かった。

このように、農業生産の生産財の市場は政府の農業生産力発展のための普及活動によって拡大し、化学肥料やトラクターなどを生産する工業が輸入代替工業化政策を進める国によって保護され発展してきた。また、灌漑水利事業、道路建設などの開発事業が工業部門に様々な波及的効果を及ぼしたこともつけ加える必要がある。

以上、閉鎖型経済期の輸入代替工業化の時代に、市場、工業原料供給、外貨獲得などの諸側面で農業部門のもつ役割と意義は大きく、政策的にも農業部門に強く依存する形で工業化の戦略がとられたのである。

## 参考文献

- 1) T. C. Basbakanlık Devlet İstatistik Enstitüsü, İstatistik Göstergeler 1923—1991 (総理府 統計研究所, 『統計指標 1923—1991』), Ankara, 1993
- 2) —, Türkiye İstatistik Yıllığı 1993 (同『トルコ統計年鑑』1993年), Ankara, 1994
- 3) —, Turkey and World Foreign Trade, Ankara, 1996
- 4) I. Cevik ed., Turkey Almanac 1991—1992, Turkish Daily News, 1993
- 5) OECD, Economic Survey : Turkey, 1994, 97
- 6) O.Aresvik, The Agricultural Development in Turkey, New York, 1975
- 7) Z.Hershlag, Turkey : The Challenge of Growth, Brill, 1968
- 8) Z.Hershlag, The Contemporary Turkish Economy, London, 1988
- 9) G. Capoglu, Türkiye İstikrar içinde Nasıl Kalkınıl (『トルコの独立はどのように回復可能か』), Ankara, 1992
- 10) T. Uras, Ekonomide Ozal'lı Yıllar 1980—1990 (『経済におけるオザルの時代』), Istanbul, 1993
- 11) A.Kafaoglu, KİT Gerçeği ve Özelleştirme (『国営企業の実情と民営化』), Istanbul, 1994
- 12) E. Carıkcı, Ekonomik Güçlükler ve Çözüm Yollar (『経済的困難と解決法』), Ankara, 1991
- 13) S.Karlık, Türkiye Ekonomisi (『トルコ経済』), Eskişehir, 1994
- 14) N. Kuyucuklu, Türkiye İktisadi (『トルコ経済』), Istanbul, 1993
- 15) S.Hiç, Türkiye Ekonomisi (『トルコ経済』), Ankara, 1990
- 16) Y. Kepenek, Türkiye'de KAMU İktisadi Tesebbüsleri, Istanbul, 1990
- 17) C. Aruoba, Türkiye Ekonomisi Sektörel Gelişmeler (『トルコ経済の成長』), Ankara, 1992
- 18) Z. Dinler, Tarım Ekonomisi (『農業経済』), Bursa, 1988
- 19) I. Turk, Kamu Maliyesi (『国営部門の財政』), Ankara, 1992

資料 1 国民総生産と人口

| 年    | GNP<br>(現行価格, 100 万 TL) | GNP<br>(固定価格 100 万 TL) * | GNP<br>実質成長率 | 人口<br>(1000 人) | 人口成長<br>率(%) | 一人当り<br>GNP( \$ ) | デフレーター<br>(%) | 1987 = 100 |
|------|-------------------------|--------------------------|--------------|----------------|--------------|-------------------|---------------|------------|
| 1923 | 953                     | 2 929                    | —            | —              | —            | 34.6              | —             | —          |
| 1924 | 1 204                   | 3 364                    | 14.9         | —              | —            | 56.2              | 10.0          | 0.04       |
| 1925 | 1 526                   | 3 793                    | 12.8         | —              | —            | 69.7              | 12.4          | 0.05       |
| 1926 | 1 651                   | 4 484                    | 18.2         | —              | —            | 73.9              | -8.5          | 0.04       |
| 1927 | 1 471                   | 3 910                    | -12.8        | 13 562         | —            | 64.6              | 2.2           | 0.04       |
| 1928 | 1 633                   | 4 341                    | 11.0         | 13 843         | 2.07         | 59.4              | -0.1          | 0.04       |
| 1929 | 2 073                   | 5 278                    | 21.6         | 14 138         | 2.13         | 73.9              | 4.4           | 0.05       |
| 1930 | 1 581                   | 5 394                    | 2.2          | 14 440         | 2.14         | 55.2              | -25.4         | 0.03       |
| 1931 | 1 392                   | 5 866                    | 8.7          | 14 748         | 2.13         | 47.6              | -19.0         | 0.03       |
| 1932 | 1 171                   | 5 235                    | -10.7        | 15 062         | 2.13         | 39.2              | -5.7          | 0.03       |
| 1933 | 1 141                   | 6 064                    | 15.8         | 15 383         | 2.13         | 44.7              | -15.9         | 0.02       |
| 1934 | 1 216                   | 6 430                    | 6.0          | 15 711         | 2.13         | 46.6              | 0.5           | 0.02       |
| 1935 | 1 310                   | 6 234                    | -3.0         | 16 046         | 2.13         | 49.2              | 11.1          | 0.03       |
| 1936 | 1 695                   | 7 679                    | 23.2         | 16 352         | 1.91         | 62.5              | 5.0           | 0.03       |
| 1937 | 1 807                   | 7 798                    | 1.5          | 16 637         | 1.74         | 65.5              | 5.0           | 0.03       |
| 1938 | 1 896                   | 8 538                    | 9.5          | 16 926         | 1.74         | 88.4              | -4.1          | 0.03       |
| 1939 | 2 063                   | 9 128                    | 6.9          | 17 370         | 2.62         | 90.6              | 1.8           | 0.03       |
| 1940 | 2 403                   | 8 678                    | -4.9         | 17 714         | 1.98         | 103.8             | 22.5          | 0.03       |
| 1941 | 2 992                   | 7 780                    | -10.3        | 17 952         | 1.34         | 127.8             | 38.9          | 0.05       |
| 1942 | 6 196                   | 8 217                    | 5.6          | 18 143         | 1.06         | 261.8             | 96.0          | 0.09       |
| 1943 | 9 232                   | 7 413                    | -9.8         | 18 337         | 1.07         | 386.0             | 65.2          | 0.15       |
| 1944 | 6 685                   | 7 038                    | -5.1         | 18 532         | 1.06         | 276.5             | -23.7         | 0.11       |
| 1945 | 5 470                   | 5 960                    | -15.3        | 18 729         | 1.06         | 223.9             | -3.4          | 0.11       |
| 1946 | 6 876                   | 7 864                    | 31.9         | 19 074         | 1.84         | 191.0             | -5.0          | 0.10       |
| 1947 | 7 543                   | 8 192                    | 4.2          | 19 493         | 2.20         | 137.3             | 5.6           | 0.11       |
| 1948 | 9 493                   | 37 065                   | 4.2          | 19 922         | 2.20         | 170.2             | 20.8          | 0.13       |
| 1949 | 9 054                   | 35 213                   | -5.0         | 20 359         | 2.19         | 158.8             | 0.4           | 0.13       |
| 1950 | 9 694                   | 38 506                   | 9.4          | 20 807         | 2.20         | 166.4             | -2.1          | 0.13       |
| 1951 | 11 644                  | 43 446                   | 12.83        | 21 315         | 2.44         | 194.8             | 6.5           | 0.14       |
| 1952 | 13 389                  | 48 621                   | 11.91        | 21 951         | 2.98         | 217.8             | 2.7           | 0.14       |
| 1953 | 15 607                  | 54 091                   | 11.25        | 22 569         | 2.82         | 247.0             | 4.8           | 0.15       |
| 1954 | 15 915                  | 52 480                   | -2.98        | 23 204         | 2.81         | 244.9             | 5.1           | 0.16       |
| 1955 | 19 117                  | 56 642                   | 7.93         | 23 857         | 2.81         | 286.2             | 11.3          | 0.17       |
| 1956 | 22 047                  | 58 428                   | 3.15         | 24 540         | 2.86         | 322.1             | 11.8          | 0.20       |
| 1957 | 29 310                  | 62 995                   | 7.82         | 25 250         | 2.89         | 414.5             | 23.3          | 0.24       |



|      |             |            |       |        |      |        |      |        |
|------|-------------|------------|-------|--------|------|--------|------|--------|
| 1958 | 35 000      | 65 844     | 4.52  | 25 981 | 2.90 | 481.1  | 14.2 | 0.28   |
| 1959 | 43 670      | 68 521     | 4.07  | 26 733 | 2.89 | 583.4  | 19.9 | 0.33   |
| 1960 | 46 664      | 70 869     | 3.43  | 27 506 | 2.89 | 358.6  | 3.3  | 0.34   |
| 1961 | 49 536      | 72 286     | 2.0   | 28 227 | 2.62 | 194.1  | 4.1  | 0.36   |
| 1962 | 57 593      | 76 754     | 6.18  | 28 931 | 2.49 | 220.2  | 9.5  | 0.39   |
| 1963 | 66 801      | 84 188     | 9.69  | 29 652 | 2.49 | 249.2  | 5.7  | 0.41   |
| 1964 | 71 313      | 87 619     | 4.08  | 30 391 | 2.49 | 258.4  | 2.6  | 0.42   |
| 1965 | 76 726      | 90 368     | 3.14  | 31 149 | 2.49 | 271.3  | 4.3  | 0.44   |
| 1966 | 91 419      | 101 204    | 11.99 | 31 936 | 2.53 | 315.3  | 6.4  | 0.47   |
| 1967 | 101 481     | 105 461    | 4.21  | 32 750 | 2.55 | 341.3  | 6.5  | 0.50   |
| 1968 | 157 388     | 30 625 455 | 6.67  | 33 586 | 2.55 | 516.1  | 3.9  | 0.52   |
| 1969 | 177 304     | 32 002 475 | 4.32  | 34 443 | 2.55 | 566.9  | 7.2  | 0.56   |
| 1970 | 201 851     | 33 551 885 | 4.44  | 35 321 | 2.55 | 523.3  | 8.5  | 0.60   |
| 1971 | 253 767     | 36 017 389 | 7.05  | 36 215 | 2.53 | 462.8  | 17.4 | 0.71   |
| 1972 | 306 675     | 39 480 255 | 9.17  | 37 132 | 2.53 | 577.6  | 10.2 | 0.78   |
| 1973 | 389 038     | 41 489 064 | 4.91  | 38 073 | 2.53 | 715.6  | 21.1 | 0.94   |
| 1974 | 536 985     | 43 004 075 | 3.26  | 39 037 | 2.53 | 978.4  | 30.5 | 1.23   |
| 1975 | 679 030     | 45 720 106 | 6.06  | 40 026 | 2.53 | 1163.6 | 21.2 | 1.49   |
| 1976 | 854 083     | 49 986 430 | 9.0   | 40 916 | 2.22 | 1290.9 | 15.3 | 1.72   |
| 1977 | 1 104 615   | 51 500 335 | 2.99  | 41 769 | 2.08 | 1461.9 | 24.0 | 2.13   |
| 1978 | 1 651 182   | 52 228 873 | 1.23  | 42 641 | 2.09 | 1572.2 | 46.7 | 3.13   |
| 1979 | 2 816 131   | 51 880 373 | -0.49 | 43 531 | 2.09 | 1837.4 | 75.6 | 5.50   |
| 1980 | 5 362 011   | 50 678 685 | -2.78 | 44 439 | 2.09 | 1556.1 | 89.6 | 10.42  |
| 1981 | 8 040 114   | 53 377 284 | 4.81  | 45 540 | 2.48 | 1573.5 | 44.3 | 15.05  |
| 1982 | 10 699 452  | 55 371 269 | 3.09  | 46 688 | 2.52 | 1386.6 | 28.3 | 19.31  |
| 1983 | 14 110 956  | 57 900 634 | 4.21  | 47 864 | 2.52 | 1280.0 | 26.0 | 24.32  |
| 1984 | 22 716 083  | 62 401 389 | 7.11  | 49 070 | 2.52 | 1234.2 | 48.5 | 36.13  |
| 1985 | 35 974 693  | 65 189 062 | 4.30  | 50 306 | 2.52 | 1353.2 | 52.9 | 55.24  |
| 1986 | 52 063 515  | 70 092 365 | 6.76  | 51 433 | 2.24 | 1486.7 | 35.6 | 74.92  |
| 1987 | 76 612 983  | 76 612 983 | 9.81  | 52 561 | 2.19 | 1670.6 | 33.5 | 100.00 |
| 1988 | 134 060 085 | 77 799 910 | 1.45  | 53 715 | 2.20 | 1747.8 | 69.7 | 169.73 |
| 1989 | 235 305 478 | 78 469 362 | 1.63  | 54 893 | 2.19 | 2005.1 | 75.5 | 297.84 |
| 1990 | 399 839 815 | 86 050 138 | 9.37  | 56 098 | 2.20 | 2705.5 | 57.6 | 469.52 |
| 1991 | 630 785 321 | 86 347 877 | 0.35  | 57 326 | 2.19 | 2604.6 | 59.2 | 747.34 |

\* 1923 - 1947 年の間, 1948 年価格

1948 - 1967 年の間, 1968 年価格

1968 - 1991 年の間, 1987 年価格



資料 2-a 産業別 GNP 構成(1)

| 年    | 農 業        |          | 鉱工業        |          | サービス       |          |
|------|------------|----------|------------|----------|------------|----------|
|      | 金額(10 万リラ) | 対 GNP 比率 | 金額(10 万リラ) | 対 GNP 比率 | 金額(10 万リラ) | 対 GNP 比率 |
| 1923 | 12 635     | 43%      | 3 092      | 11%      | 13 558     | 46%      |
| 1924 | 16 072     | 48%      | 2 871      | 9 %      | 14 695     | 44%      |
| 1925 | 16 966     | 45%      | 3 384      | 9 %      | 17 583     | 46%      |
| 1926 | 22 367     | 50%      | 3 884      | 9 %      | 18 589     | 41%      |
| 1927 | 15 462     | 40%      | 4 639      | 12%      | 18 995     | 49%      |
| 1928 | 18 424     | 42%      | 4 612      | 11%      | 20 377     | 47%      |
| 1929 | 26 265     | 50%      | 4 785      | 9 %      | 21 732     | 41%      |
| 1930 | 25 251     | 47%      | 5 393      | 10%      | 23 295     | 43%      |
| 1931 | 28 868     | 49%      | 6 157      | 10%      | 23 632     | 40%      |
| 1932 | 20 550     | 39%      | 7 251      | 14%      | 24 551     | 47%      |
| 1933 | 25 095     | 41%      | 8 629      | 14%      | 26 915     | 44%      |
| 1934 | 25 783     | 40%      | 9 818      | 15%      | 28 695     | 45%      |
| 1935 | 24 205     | 39%      | 9 806      | 16%      | 28 327     | 45%      |
| 1936 | 37 312     | 49%      | 9 460      | 12%      | 30 018     | 39%      |
| 1937 | 35 995     | 46%      | 10 447     | 13%      | 31 540     | 40%      |
| 1938 | 37 935     | 44%      | 12 098     | 14%      | 35 353     | 41%      |
| 1939 | 39 395     | 43%      | 14 109     | 15%      | 37 775     | 41%      |
| 1940 | 38 906     | 45%      | 12 674     | 15%      | 35 199     | 41%      |
| 1941 | 32 492     | 42%      | 12 376     | 16%      | 32 936     | 42%      |
| 1942 | 38 807     | 47%      | 12 064     | 15%      | 31 303     | 38%      |
| 1943 | 33 952     | 46%      | 11 894     | 16%      | 28 283     | 38%      |
| 1944 | 30 318     | 43%      | 11 166     | 16%      | 28 895     | 41%      |
| 1945 | 23 216     | 39%      | 9 317      | 16%      | 27 068     | 45%      |
| 1946 | 35 800     | 46%      | 11 753     | 15%      | 31 087     | 40%      |
| 1947 | 31 629     | 39%      | 12 429     | 15%      | 37 866     | 46%      |
| 1948 | 164 371    | 44%      | 47 528     | 13%      | 158 753    | 43%      |
| 1949 | 142 175    | 40%      | 46 221     | 13%      | 163 732    | 46%      |
| 1950 | 157 608    | 41%      | 50 541     | 13%      | 176 910    | 46%      |
| 1951 | 188 756    | 43%      | 51 870     | 12%      | 193 838    | 45%      |
| 1952 | 206 662    | 43%      | 57 529     | 12%      | 222 020    | 46%      |
| 1953 | 224 611    | 42%      | 68 568     | 13%      | 247 726    | 46%      |
| 1954 | 193 353    | 37%      | 74 858     | 14%      | 256 592    | 49%      |
| 1955 | 212 350    | 37%      | 83 326     | 15%      | 270 740    | 48%      |
| 1956 | 222 956    | 38%      | 91 284     | 16%      | 270 040    | 46%      |
| 1957 | 237 366    | 38%      | 101 096    | 16%      | 291 487    | 46%      |

資料2-b 産業別GNP構成(2)

| 年    | 農業          |        | 鉱工業         |        | サービス        |        |
|------|-------------|--------|-------------|--------|-------------|--------|
|      | 金額(10万リラ)   | 対GNP比率 | 金額(10万リラ)   | 対GNP比率 | 金額(10万リラ)   | 対GNP比率 |
| 1958 | 259 094     | 39%    | 106 711     | 16%    | 292 638     | 44%    |
| 1959 | 259 851     | 38%    | 110 576     | 16%    | 314 785     | 46%    |
| 1960 | 265 905     | 38%    | 110 998     | 16%    | 331 783     | 47%    |
| 1961 | 253 007     | 35%    | 123 978     | 17%    | 345 871     | 48%    |
| 1962 | 265 749     | 35%    | 128 314     | 17%    | 373 480     | 49%    |
| 1963 | 291 390     | 35%    | 143 699     | 17%    | 406 793     | 48%    |
| 1964 | 290 167     | 33%    | 159 861     | 18%    | 426 166     | 49%    |
| 1965 | 278 839     | 31%    | 175 005     | 19%    | 449 835     | 50%    |
| 1966 | 308 773     | 31%    | 201 531     | 20%    | 501 739     | 50%    |
| 1967 | 309 008     | 29%    | 217 969     | 21%    | 527 628     | 50%    |
| 1968 | 94 501 387  | 31%    | 56 833 207  | 19%    | 154 919 955 | 51%    |
| 1969 | 93 051 723  | 29%    | 63 655 603  | 20%    | 163 317 423 | 51%    |
| 1970 | 96 676 639  | 29%    | 63 385 298  | 19%    | 175 456 913 | 52%    |
| 1971 | 102 338 600 | 28%    | 69 034 704  | 19%    | 188 800 585 | 52%    |
| 1972 | 104 162 240 | 26%    | 76 363 507  | 19%    | 214 276 801 | 54%    |
| 1973 | 95 058 510  | 23%    | 85 539 175  | 21%    | 234 292 956 | 56%    |
| 1974 | 101 632 036 | 24%    | 91 548 149  | 21%    | 236 860 569 | 55%    |
| 1975 | 105 163 313 | 23%    | 99 838 279  | 22%    | 252 199 460 | 55%    |
| 1976 | 113 455 181 | 23%    | 108 684 215 | 22%    | 277 724 905 | 56%    |
| 1977 | 110 421 332 | 21%    | 115 859 527 | 22%    | 288 722 494 | 56%    |
| 1978 | 114 130 755 | 22%    | 119 455 851 | 23%    | 288 702 122 | 55%    |
| 1979 | 114 414 695 | 22%    | 113 443 425 | 22%    | 290 945 607 | 56%    |
| 1980 | 116 794 971 | 23%    | 109 29 6791 | 22%    | 280 695 084 | 55%    |
| 1981 | 115 080 537 | 22%    | 120 968 618 | 23%    | 298 623 688 | 56%    |
| 1982 | 120 390 880 | 22%    | 126 216 780 | 23%    | 307 105 025 | 55%    |
| 1983 | 119 511 465 | 21%    | 134 700 903 | 23%    | 324 793 969 | 56%    |
| 1984 | 121 389 688 | 19%    | 148 791 150 | 24%    | 353 833 054 | 57%    |
| 1985 | 121 69 688  | 19%    | 158 467 163 | 24%    | 371 731 765 | 57%    |
| 1986 | 126 969 969 | 18%    | 179 169 931 | 26%    | 394 893 762 | 56%    |
| 1987 | 128 276 343 | 17%    | 195 680 891 | 26%    | 442 172 592 | 58%    |
| 1988 | 138 619 389 | 18%    | 199 729 717 | 26%    | 439 649 993 | 57%    |
| 1989 | 128 251 747 | 16%    | 208 175 990 | 27%    | 448 265 878 | 57%    |
| 1990 | 137 675 172 | 16%    | 227 581 780 | 26%    | 495 244 427 | 58%    |
| 1991 | 136 437 294 | 16%    | 233 906 142 | 27%    | 493 135 324 | 57%    |

\*1923-1947年の間, 1948年の価格。1949-1967年の間, 1968年の価格。1968-1991年の間, 1987年の価格。

資料3 活動人口 (1000人)

|          | 1955年  |        | 1960年  |        | 1965年  |        | 1970年  |        | 1975年  |        | 1980年  |        | 1985年  |        |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|          | 人口     | シェア(%) | 人口     | シェア(%) | 人口     | シェア(%) | 人口     | シェア(%) | 人口     | シェア(%) | 人口     | シェア(%) | 人口     | シェア(%) |
| 活動       | 9 446  | 77.4   | 9 737  | 74.9   | 9 750  | 71.9   | 9 281  | 66.1   | 10 458 | 65.2   | 9 972  | 57.9   | 10 951 | 57.0   |
| 農業       | 63     | 0.5    | 77     | 0.6    | 87     | 0.6    | 110    | 0.8    | 111    | 0.7    | 132    | 0.8    | 137    | 0.7    |
| 鉱業       | 727    | 6.0    | 885    | 6.8    | 961    | 7.1    | 1 231  | 8.8    | 1 395  | 8.7    | 1 889  | 11.0   | 2 096  | 10.9   |
| 工業       | 16     | 0.1    | 15     | 0.1    | 26     | 0.2    | 15     | 0.1    | 20     | 0.1    | 33     | 0.2    | 23     | 0.1    |
| 電気・ガス・水道 | 200    | 1.6    | 290    | 2.2    | 351    | 2.6    | 431    | 3.1    | 524    | 3.3    | 753    | 4.4    | 741    | 3.9    |
| 建設       | 341    | 2.8    | 404    | 3.1    | 392    | 2.9    | 659    | 4.7    | 791    | 4.9    | 1 062  | 6.2    | 1 355  | 7.1    |
| 卸        | 190    | 1.6    | 247    | 1.9    | 287    | 2.1    | 357    | 2.5    | 481    | 3.0    | 529    | 3.1    | 614    | 3.2    |
| 運輸       | 496    | 4.1    | 677    | 5.2    | 836    | 6.2    | 1 680  | 12.0   | 2 045  | 12.7   | 2 679  | 15.6   | 3 188  | 16.6   |
| サービス     | 727    | 6.0    | 661    | 5.1    | 868    | 6.4    | 288    | 2.0    | 223    | 1.4    | 171    | 1.0    | 104    | 0.5    |
| その他      | 12 205 | 100.0  | 12 993 | 100.0  | 13 558 | 100.0  | 14 051 | 100.0  | 16 950 | 100.0  | 17 220 | 100.0  | 19 209 | 100.0  |
| 合計       |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |

資料4 都市・農村別人口 (1000人)

| 年    | 合計     | 都市部    |        | 農村部    |        |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
|      |        | 人口     | シェア(%) | 人口     | シェア(%) |
| 1927 | 13 648 | 3 306  | 24.2   | 10 342 | 75.8   |
| 1935 | 16 158 | 3 803  | 23.5   | 12 355 | 76.5   |
| 1940 | 17 821 | 4 346  | 24.4   | 13 475 | 75.6   |
| 1945 | 18 790 | 4 687  | 24.9   | 14 103 | 75.1   |
| 1950 | 20 947 | 5 244  | 25.0   | 15 703 | 75.0   |
| 1955 | 24 065 | 6 927  | 28.8   | 17 137 | 71.2   |
| 1960 | 27 755 | 8 860  | 31.9   | 18 895 | 68.1   |
| 1965 | 31 391 | 10 806 | 34.4   | 20 586 | 65.6   |
| 1970 | 35 605 | 13 691 | 38.5   | 21 914 | 61.5   |
| 1975 | 40 348 | 16 869 | 41.8   | 23 479 | 58.2   |
| 1980 | 44 737 | 19 645 | 43.9   | 25 092 | 56.1   |
| 1985 | 50 664 | 26 866 | 53.0   | 23 799 | 47.0   |
| 1990 | 56 473 | 33 326 | 59.0   | 23 147 | 41.0   |

(注) 農村人口は行政区分の村に居住する人口

資料5 主な耐久消費財の生産台数

| 年    | 乗用車     | トラクター  | 洗濯機     | 冷蔵庫       | テレビ       |
|------|---------|--------|---------|-----------|-----------|
| 1968 |         | 15 166 | 51 951  | 87 826    |           |
| 1969 |         | 13 395 | 66 453  | 133 656   |           |
| 1970 |         | 7 709  | 60 009  | 126 508   |           |
| 1971 | 12 553  | 15 693 | 84 811  | 213 145   |           |
| 1972 | 29 982  | 22 993 | 103 303 | 235 145   |           |
| 1973 | 46 855  | 32 797 | 97 187  | 293 636   |           |
| 1974 | 59 889  | 23 624 | 130 992 | 332 379   |           |
| 1975 | 67 278  | 27 497 | 163 332 | 409 618   |           |
| 1976 | 63 204  | 39 357 | 206 969 | 548 872   |           |
| 1977 | 58 252  | 31 658 | 151 364 | 285 915   |           |
| 1978 | 53 983  | 8 184  | 304 852 | 753 588   |           |
| 1979 | 43 745  | 12 860 | 297 340 | 814 643   |           |
| 1980 | 29 114  | 12 426 | 231 099 | 629 049   |           |
| 1981 | 25 302  | 21 982 | 236 638 | 739 814   |           |
| 1982 | 30 651  | 34 136 | 191 073 | 580 491   | 388 737   |
| 1983 | 42 607  | 40 300 | 231 455 | 413 253   | 419 276   |
| 1984 | 54 779  | 45 946 | 223 511 | 500 699   | 819 001   |
| 1985 | 60 360  | 36 956 | 344 848 | 487 767   | 1 016 616 |
| 1986 | 82 032  | 27 867 | 643 461 | 658 641   | 870 843   |
| 1987 | 107 185 | 35 995 | 698 426 | 884 193   | 690 187   |
| 1988 | 120 796 | 31 327 | 665 502 | 862 681   | 738 211   |
| 1989 | 118 095 | 19 602 | 621 077 | 815 876   | 999 264   |
| 1990 | 166 222 | 30 739 | 743 957 | 986 574   | 1 994 621 |
| 1991 | 195 599 | 21 964 | 836 986 | 1 019 627 | 2 567 773 |
| 1992 | 265 090 | 23 012 | 801 661 | 1 040 127 | 2 111 089 |

資料6 製造業の付加価値 (1960年の価格, 10万 TL)

| 年    | 食品・飲料・タバコ | 繊維・衣服・革製品 | 化学工業製品* | 鉄鋼製品   | 金属製品**  |
|------|-----------|-----------|---------|--------|---------|
| 1950 | 9 628     | 5 972     | 1 598   | 724    | 1 698   |
| 1951 | 9 689     | 6 756     | 1 663   | 1 281  | 1 475   |
| 1952 | 11 563    | 8 321     | 1 941   | 2 319  | 2 573   |
| 1953 | 12 629    | 11 891    | 2 867   | 2 124  | 3 099   |
| 1954 | 13 030    | 12 355    | 2 828   | 984    | 2 391   |
| 1955 | 14 886    | 12 309    | 3 366   | 1 495  | 2 469   |
| 1956 | 14 543    | 11 984    | 3 679   | 1 677  | 2 538   |
| 1957 | 15 983    | 14 392    | 4 721   | 1 333  | 3 142   |
| 1958 | 15 462    | 14 714    | 5 595   | 2 941  | 3 486   |
| 1959 | 19 346    | 14 461    | 5 915   | 4 739  | 4 749   |
| 1960 | 23 776    | 13 155    | 5 851   | 4 960  | 5 447   |
| 1961 | 21 308    | 14 218    | 6 763   | 3 961  | 7 971   |
| 1962 | 20 393    | 15 195    | 8 060   | 4 746  | 9 399   |
| 1963 | 17 944    | 14 267    | 8 140   | 4 206  | 9 117   |
| 1964 | 23 639    | 17 424    | 8 689   | 5 612  | 10 312  |
| 1965 | 32 067    | 18 335    | 12 860  | 11 331 | 13 399  |
| 1966 | 32 593    | 20 141    | 20 241  | 7 313  | 14 567  |
| 1967 | 41 284    | 20 428    | 29 431  | 10 574 | 18 303  |
| 1968 | 42 275    | 23 165    | 34 665  | 15 329 | 19 805  |
| 1969 | 44 223    | 23 520    | 36 340  | 14 365 | 20 739  |
| 1970 | 48 115    | 26 729    | 43 181  | 19 522 | 23 587  |
| 1971 | 63 903    | 30 793    | 45 180  | 18 399 | 26 409  |
| 1972 | 59 398    | 34 982    | 51 219  | 19 625 | 32 468  |
| 1973 | 50 851    | 34 075    | 53 663  | 18 934 | 35 358  |
| 1974 | 48 758    | 31 715    | 66 610  | 23 632 | 35 600  |
| 1975 | 67 783    | 32 185    | 67 012  | 21 404 | 46 660  |
| 1976 | 59 363    | 53 761    | 53 647  | 32 712 | 65 250  |
| 1977 | 63 945    | 51 675    | 54 712  | 42 478 | 59 795  |
| 1978 | 57 497    | 53 599    | 58 160  | 44 758 | 60 627  |
| 1979 | 45 555    | 49 321    | 59 196  | 29 017 | 57 065  |
| 1980 | 54 615    | 45 379    | 82 613  | 29 535 | 53 554  |
| 1981 | 68 335    | 48 817    | 119 533 | 29 391 | 60 670  |
| 1982 | 88 513    | 53 985    | 118 465 | 26 937 | 69 378  |
| 1983 | 78 442    | 59 997    | 120 900 | 33 457 | 72 606  |
| 1984 | 82 320    | 63 746    | 99 595  | 37 554 | 75 623  |
| 1985 | 94 039    | 66 213    | 116 067 | 38 527 | 81 485  |
| 1986 | 105 153   | 77 247    | 220 839 | 45 836 | 103 186 |
| 1987 | 107 922   | 102 048   | 159 369 | 59 648 | 121 156 |
| 1988 | 123 646   | 111 481   | 213 338 | 78 104 | 133 888 |
| 1989 | 128 157   | 114 823   | 222 856 | 82 677 | 128 991 |
| 1990 | 139 971   | 129 927   | 259 742 | 58 896 | 169 612 |

\*石油製品, 石炭製品, プラスチック製品, ゴム製品

\*\*一般機械, 電気器具, 輸送機械, 精密機械



資料7 製造業の付加価値，国営・民営別（1960年の価格，100万 TL）

| 年    | 付加価値合計 | 国 営 部 門 | 民 間 部 門 | 国営部門シェア | 民間部門シェア |
|------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 1950 | 2 134  | 1 252   | 882     | 59%     | 41%     |
| 1951 | 2 257  | 1 337   | 920     | 59%     | 41%     |
| 1952 | 2 913  | 1 787   | 1 126   | 61%     | 39%     |
| 1953 | 3 551  | 1 981   | 1 570   | 56%     | 44%     |
| 1954 | 3 506  | 1 772   | 1 734   | 51%     | 49%     |
| 1955 | 3 806  | 1 908   | 1 898   | 50%     | 50%     |
| 1956 | 3 809  | 1 792   | 2 017   | 47%     | 53%     |
| 1957 | 4 359  | 1 939   | 2 420   | 44%     | 56%     |
| 1958 | 4 700  | 2 119   | 2 581   | 45%     | 55%     |
| 1959 | 5 441  | 2 957   | 2 484   | 54%     | 46%     |
| 1960 | 5 930  | 3 105   | 2 825   | 52%     | 48%     |
| 1961 | 6 126  | 3 135   | 2 991   | 51%     | 49%     |
| 1962 | 6 575  | 3 461   | 3 114   | 53%     | 47%     |
| 1963 | 6 191  | 3 263   | 2 928   | 53%     | 47%     |
| 1964 | 7 604  | 3 921   | 3 683   | 52%     | 48%     |
| 1965 | 9 837  | 5 249   | 4 588   | 53%     | 47%     |
| 1966 | 10 734 | 5 740   | 4 994   | 53%     | 47%     |
| 1967 | 13 255 | 7 723   | 5 532   | 58%     | 42%     |
| 1968 | 15 097 | 8 878   | 6 219   | 59%     | 41%     |
| 1969 | 15 451 | 8 993   | 6 458   | 58%     | 42%     |
| 1970 | 18 391 | 9 981   | 8 410   | 54%     | 46%     |
| 1971 | 20 749 | 11 623  | 9 126   | 56%     | 44%     |
| 1972 | 22 484 | 11 668  | 10 816  | 52%     | 48%     |
| 1973 | 21 434 | 9 971   | 11 463  | 47%     | 53%     |
| 1974 | 23 001 | 11 556  | 11 445  | 50%     | 50%     |
| 1975 | 26 030 | 13 158  | 12 872  | 51%     | 49%     |
| 1976 | 29 474 | 10 475  | 18 999  | 36%     | 64%     |
| 1977 | 31 266 | 12 473  | 18 793  | 40%     | 60%     |
| 1978 | 31 296 | 10 454  | 20 842  | 33%     | 67%     |
| 1979 | 26 836 | 8 893   | 17 943  | 33%     | 67%     |
| 1980 | 29 775 | 12 031  | 17 744  | 40%     | 60%     |
| 1981 | 36 684 | 16 784  | 19 900  | 46%     | 54%     |
| 1982 | 40 061 | 17 268  | 22 793  | 43%     | 57%     |
| 1983 | 40 921 | 17 238  | 23 683  | 42%     | 58%     |
| 1984 | 40 140 | 14 996  | 25 144  | 37%     | 63%     |
| 1985 | 45 016 | 17 118  | 27 898  | 38%     | 62%     |
| 1986 | 61 877 | 24 608  | 37 269  | 40%     | 60%     |
| 1987 | 63 347 | 19 852  | 43 495  | 31%     | 69%     |
| 1988 | 75 094 | 25 540  | 49 554  | 34%     | 66%     |
| 1989 | 76 746 | 26 906  | 49 840  | 35%     | 65%     |
| 1990 | 86 923 | 27 371  | 59 552  | 31%     | 69%     |



資料 8-a 貿易と経常収支(1)

| 年    | 輸出額<br>(100万\$) | 輸入額<br>(100万\$) | 貿易収支<br>(100万\$) | 輸出対輸<br>入の比率<br>(%) | 輸出対<br>GNP 比率<br>(%) | 外国在住労<br>働者の送金<br>(100万\$) | 経常収支<br>(100万\$) | 対外債務<br>為替ベース  |                |                 |
|------|-----------------|-----------------|------------------|---------------------|----------------------|----------------------------|------------------|----------------|----------------|-----------------|
|      |                 |                 |                  |                     |                      |                            |                  | 全額<br>(100万TL) | TL<br>(100万TL) | 米ドル<br>(100万\$) |
| 1923 | 51              | 87              | -36              | 58.5                | 8.9                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1924 | 82              | 100             | -18              | 82.1                | 11.4                 |                            |                  |                |                |                 |
| 1925 | 103             | 129             | -26              | 79.6                | 11.2                 |                            |                  |                |                |                 |
| 1926 | 96              | 121             | -25              | 79.6                | 9.8                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1927 | 81              | 108             | -27              | 74.9                | 9.2                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1928 | 88              | 114             | -25              | 77.6                | 10.7                 |                            |                  |                |                |                 |
| 1929 | 75              | 124             | -49              | 60.6                | 7.2                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1930 | 71              | 70              | 2                | 102.7               | 9.0                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1931 | 60              | 60              | 0                | 100.5               | 8.6                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1932 | 48              | 41              | 7                | 117.8               | 8.1                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1933 | 58              | 45              | 13               | 128.8               | 8.4                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1934 | 73              | 69              | 4                | 106.2               | 10.0                 |                            |                  |                |                |                 |
| 1935 | 76              | 71              | 6                | 107.9               | 9.7                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1936 | 94              | 74              | 20               | 127.2               | 9.2                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1937 | 109             | 91              | 19               | 120.6               | 10.0                 |                            |                  |                |                |                 |
| 1938 | 115             | 119             | -4               | 96.7                | 7.7                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1939 | 100             | 92              | 7                | 107.7               | 6.3                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1940 | 86              | 53              | 33               | 161.7               | 4.7                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1941 | 95              | 58              | 37               | 164.5               | 4.1                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1942 | 127             | 114             | 13               | 111.7               | 2.7                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1943 | 198             | 156             | 42               | 126.7               | 2.8                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1944 | 179             | 127             | 52               | 141.0               | 3.5                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1945 | 168             | 97              | 71               | 173.5               | 4.0                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1946 | 216             | 120             | 96               | 180.3               | 5.9                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1947 | 223             | 245             | -21              | 91.3                | 8.3                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1948 | 197             | 275             | -78              | 71.6                | 5.8                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1949 | 148             | 290             | -142             | 85.4                | 7.7                  |                            |                  |                |                |                 |
| 1950 | 263             | 286             | -22              | 92.2                | 7.6                  |                            | -50              | 775            |                |                 |
| 1951 | 314             | 402             | -88              | 78.1                | 7.6                  |                            | -94              | 750            |                |                 |
| 1952 | 363             | 556             | -193             | 65.3                | 7.6                  |                            | -198             | 823            |                |                 |
| 1953 | 396             | 533             | -136             | 74.4                | 7.1                  |                            | -164             | 754            |                |                 |
| 1954 | 335             | 478             | -143             | 70.0                | 5.9                  |                            | -177             | 852            |                |                 |
| 1955 | 313             | 498             | -184             | 63.0                | 4.6                  |                            | -177             | 968            |                |                 |
| 1956 | 305             | 407             | -102             | 74.9                | 3.9                  |                            | -75              | 1 177          |                |                 |
| 1957 | 345             | 397             | -52              | 86.9                | 3.3                  |                            | -64              | 1 205          |                |                 |
| 1958 | 247             | 315             | -68              | 78.5                | 2.0                  |                            | -64              | 3 837          |                |                 |
| 1959 | 354             | 470             | -116             | 75.3                | 2.3                  |                            | -145             | 4 404          |                |                 |
| 1960 | 321             | 468             | -147             | 68.6                | 3.3                  |                            | -139             | 5 021          |                |                 |
| 1961 | 347             | 507             | -160             | 68.4                | 6.3                  |                            | -170             | 5 499          |                |                 |
| 1962 | 381             | 619             | -238             | 61.5                | 6.0                  |                            | -242             | 6 590          |                |                 |
| 1963 | 369             | 688             | -319             | 53.5                | 5.0                  |                            | -300             | 5 934          |                |                 |
| 1964 | 411             | 537             | -126             | 76.5                | 5.2                  | 9                          | -109             | 7 704          |                |                 |
| 1965 | 464             | 572             | -108             | 81.1                | 5.5                  | 70                         | -78              |                | 3 175          | 1 081           |
| 1966 | 491             | 718             | -228             | 68.3                | 4.9                  | 115                        | -164             |                | 3 295          | 1 231           |
| 1967 | 522             | 685             | -162             | 76.3                | 4.7                  | 93                         | -115             |                | 3 294          | 1 344           |
| 1968 | 496             | 764             | -267             | 65.0                | 2.8                  | 107                        | -224             |                | 3 184          | 1 529           |
| 1969 | 537             | 801             | -264             | 67.0                | 2.7                  | 141                        | -220             |                | 3 119          | 1 705           |
| 1970 | 588             | 948             | -359             | 62.1                | 3.1                  | 273                        | -171             |                | 4 173          | 1 929           |

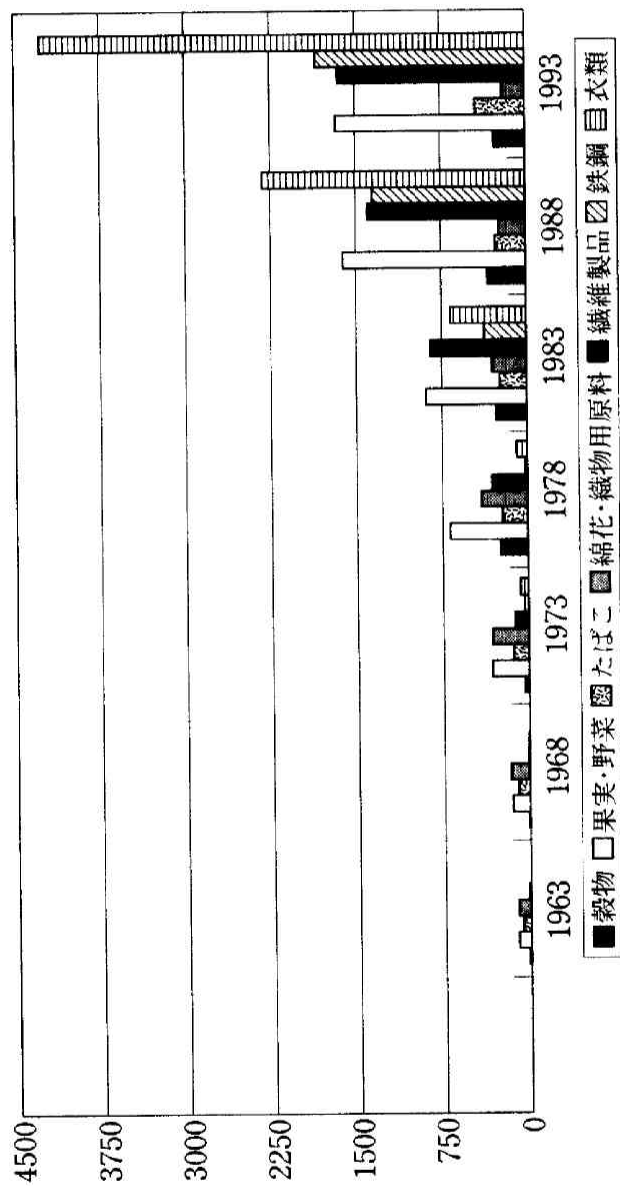
資料8-b 貿易と経常収支(2)

| 年    | 輸出額<br>(100万\$) | 輸入額<br>(100万\$) | 貿易収支<br>(100万\$) | 輸出対輸<br>入の比率<br>(%) | 輸出対<br>GNP<br>比率<br>(%) | 外国在住<br>労働者の<br>送金<br>(100万\$) | 経常収支<br>(100万\$) | 対外債務           |                 |                |                |                 |
|------|-----------------|-----------------|------------------|---------------------|-------------------------|--------------------------------|------------------|----------------|-----------------|----------------|----------------|-----------------|
|      |                 |                 |                  |                     |                         |                                |                  | 為替ベース          |                 | マチュリティ・ベース     |                |                 |
|      |                 |                 |                  |                     |                         |                                |                  | TL<br>(100万TL) | 米ドル<br>(100万\$) | 全額<br>(100万\$) | 短期<br>(100万\$) | 中長期<br>(100万\$) |
| 1971 | 677             | 1 171           | -494             | 57.8                | 3.9                     | 471                            | -109             | 3 846          | 2 210           | —              | —              | —               |
| 1972 | 885             | 1 563           | -678             | 56.6                | 4.0                     | 740                            | -8               | 3 740          | 2 300           | —              | —              | —               |
| 1973 | 1 317           | 2 086           | -769             | 63.1                | 4.7                     | 1 183                          | 484              | 3 638          | 2 654           | —              | —              | —               |
| 1974 | 1 532           | 3 778           | -2 245           | 40.6                | 4.0                     | 1 426                          | -719             | 3 424          | 2 901           | —              | —              | —               |
| 1975 | 1 401           | 4 739           | -3 337           | 29.6                | 3.0                     | 1 312                          | -1 648           | 3 412          | 3 012           | —              | —              | —               |
| 1976 | 1 960           | 5 129           | -3 168           | 38.2                | 3.7                     | 982                            | -2 029           | 3 417          | 3 822           | —              | —              | —               |
| 1977 | 1 753           | 5 796           | -4 043           | 30.2                | 2.9                     | 982                            | -3 140           | 3 545          | 4 410           | —              | —              | —               |
| 1978 | 2 288           | 4 599           | -2 311           | 49.8                | 3.4                     | 983                            | -1 265           | 3 973          | 6 126           | —              | —              | —               |
| 1979 | 2 261           | 5 069           | -2 808           | 44.6                | 2.8                     | 1 694                          | -1 413           | —              | —               | 14 234         | 3 596          | 10 638          |
| 1980 | 2 910           | 7 909           | -4 999           | 36.8                | 4.3                     | 2 071                          | -3 408           | —              | —               | 16 227         | 2 505          | 13 722          |
| 1981 | 4 703           | 8 933           | -4 230           | 52.6                | 6.6                     | 2 490                          | -1 936           | —              | —               | 17 041         | 2 179          | 14 862          |
| 1982 | 5 746           | 9 943           | -4 197           | 65.0                | 8.9                     | 2 140                          | -952             | —              | —               | 17 619         | 1 764          | 15 855          |
| 1983 | 5 728           | 9 235           | -3 507           | 62.0                | 9.5                     | 1 513                          | -1 923           | —              | —               | 18 385         | 2 281          | 16 104          |
| 1984 | 7 134           | 10 757          | -3 623           | 66.3                | 12.1                    | 1 807                          | -1 439           | —              | —               | 20 659         | 3 180          | 17 479          |
| 1985 | 7 985           | 11 343          | -3 358           | 70.2                | 11.9                    | 1 714                          | -1 013           | —              | —               | 25 476         | 4 759          | 20 717          |
| 1986 | 7 457           | 11 105          | -3 648           | 67.2                | 9.9                     | 1 634                          | -1 465           | —              | —               | 32 101         | 6 349          | 25 752          |
| 1987 | 10 190          | 14 158          | -3 968           | 72.0                | 11.9                    | 2 021                          | -806             | —              | —               | 40 428         | 7 623          | 32 805          |
| 1988 | 11 662          | 14 335          | -2 673           | 81.4                | 12.9                    | 1 776                          | 1 596            | —              | —               | 40 722         | 6 417          | 34 305          |
| 1989 | 11 625          | 15 792          | -4 167           | 73.6                | 10.8                    | 3 040                          | 961              | —              | —               | 41 751         | 5 745          | 36 006          |
| 1990 | 12 959          | 22 302          | -9 343           | 58.1                | 8.6                     | 3 246                          | -2 625           | —              | —               | 49 035         | 9 500          | 39 535          |
| 1991 | 13 593          | 21 047          | -7 454           | 64.6                | 9.1                     | 2 819                          | 250              | —              | —               | 50 489         | 9 117          | 41 372          |
| 1992 | 14 715          | 22 871          | -8 156           | 64.3                | 9.3                     | 3 008                          | -974             | —              | —               | 55 592         | 12 660         | 42 932          |
| 1993 | 15 435          | 29 428          | -13 993          | 52.1                | 8.9                     | 2 919                          | -6 433           | —              | —               | 67 356         | 18 533         | 48 823          |

## 資料9 輸出構造

| 年    | 農産物            |            | 鉱業物            |            | 工業物            |            |
|------|----------------|------------|----------------|------------|----------------|------------|
|      | 輸出額<br>(10万\$) | シェア<br>(%) | 輸出額<br>(10万\$) | シェア<br>(%) | 輸出額<br>(10万\$) | シェア<br>(%) |
| 1963 | 284.2          | 77.2       | 10.6           | 2.9        | 73.3           | 19.9       |
| 1964 | 311.5          | 75.8       | 14.9           | 3.6        | 84.3           | 20.5       |
| 1965 | 352.0          | 75.9       | 21.0           | 4.5        | 90.8           | 19.6       |
| 1966 | 379.1          | 77.3       | 23.2           | 4.7        | 88.3           | 18.0       |
| 1967 | 420.4          | 80.5       | 20.7           | 4.0        | 81.2           | 15.5       |
| 1968 | 406.6          | 81.9       | 26.1           | 5.2        | 63.8           | 12.8       |
| 1969 | 405.0          | 75.4       | 34.9           | 6.5        | 97.0           | 18.1       |
| 1970 | 442.6          | 75.2       | 45.4           | 7.7        | 100.5          | 17.1       |
| 1971 | 491.3          | 72.6       | 48.9           | 7.2        | 136.4          | 20.2       |
| 1972 | 607.4          | 68.6       | 50.3           | 5.7        | 227.3          | 25.7       |
| 1973 | 832.0          | 63.2       | 56.5           | 4.3        | 428.7          | 32.5       |
| 1974 | 851.9          | 55.6       | 88.3           | 5.8        | 592.0          | 38.6       |
| 1975 | 792.6          | 56.6       | 105.6          | 7.5        | 502.9          | 35.9       |
| 1976 | 1 254.4        | 64.0       | 110.0          | 5.6        | 595.8          | 30.4       |
| 1977 | 1 041.4        | 59.4       | 125.9          | 7.2        | 585.8          | 33.4       |
| 1978 | 1 542.8        | 67.4       | 124.1          | 5.4        | 621.3          | 27.2       |
| 1979 | 1 343.6        | 59.4       | 132.5          | 5.9        | 785.0          | 34.7       |
| 1980 | 1 671.7        | 57.4       | 191.0          | 6.6        | 1 047.4        | 36.0       |
| 1981 | 2 219.4        | 47.2       | 193.4          | 4.1        | 2 290.1        | 48.7       |
| 1982 | 2 141.2        | 37.3       | 175.3          | 3.1        | 3 429.4        | 59.7       |
| 1983 | 1 880.6        | 32.8       | 188.9          | 3.3        | 3 658.3        | 63.9       |
| 1984 | 1 749.2        | 24.5       | 239.8          | 3.4        | 5 144.6        | 72.1       |
| 1985 | 1 719.4        | 21.6       | 243.8          | 3.1        | 5 994.7        | 75.3       |
| 1986 | 1 885.6        | 25.3       | 246.9          | 3.3        | 5 324.3        | 71.4       |
| 1987 | 1 852.5        | 18.2       | 272.3          | 2.7        | 8 065.2        | 79.1       |
| 1988 | 2 341.3        | 20.1       | 377.2          | 3.2        | 8 943.5        | 76.7       |
| 1989 | 2 125.7        | 18.3       | 413.2          | 3.6        | 9 085.8        | 78.2       |
| 1990 | 2 387.8        | 18.4       | 331.5          | 2.6        | 10 240.1       | 79.0       |
| 1991 | 2 725.5        | 20.1       | 285.9          | 2.1        | 10 582.1       | 77.8       |
| 1992 | 2 259.1        | 15.4       | 264.2          | 1.8        | 12 191.4       | 82.9       |
| 1993 | 2 380.6        | 15.5       | 238.3          | 1.6        | 12 726.2       | 82.9       |

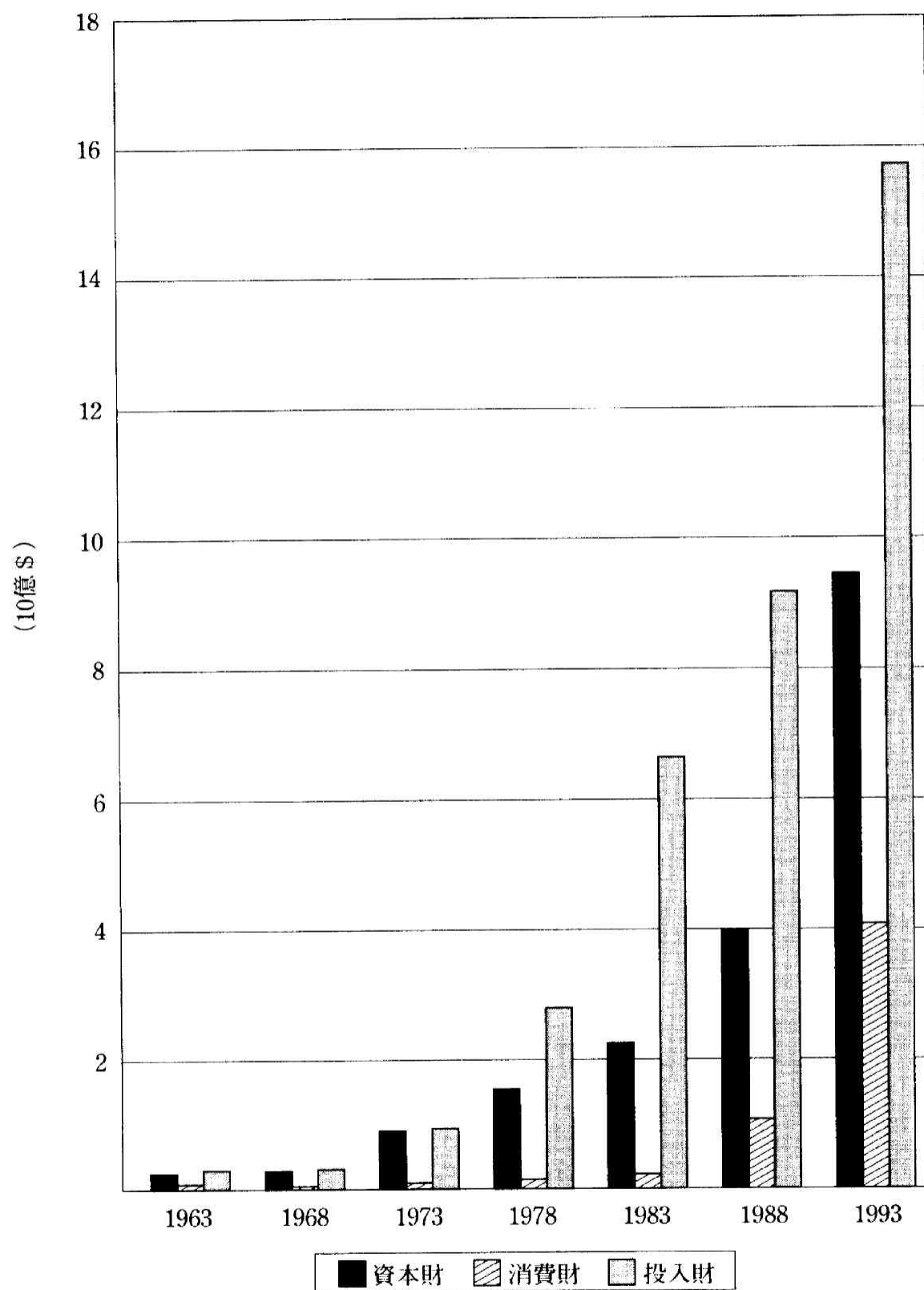
資料10 主な輸出品 (100万ドル)



資料 11 主な輸出品の総輸出に占める割合 (%)

| 年    | 果実・野菜<br>(乾燥果実) | たばこ  | 綿花等織物<br>用原料 | 繊維製品 | 鉄 鋼  | 衣 類  |
|------|-----------------|------|--------------|------|------|------|
| 1963 | 24.7            | 18.1 | 26.4         | 0.8  | 0.1  | 0    |
| 1964 | 21.9            | 21.9 | 24.7         | 1.1  | 0.4  | 0    |
| 1965 | 24.1            | 19.5 | 24.6         | 0.9  | 0.4  | 0    |
| 1966 | 21.5            | 21.9 | 28.4         | 0.5  | 0.5  | 0.1  |
| 1967 | 26.4            | 22.6 | 27.2         | 0.5  | 0.3  | 0.1  |
| 1968 | 26.8            | 19.1 | 29.9         | 1.5  | 0.5  | 0.1  |
| 1969 | 33.8            | 16.4 | 24.6         | 3.1  | 0.7  | 0.2  |
| 1970 | 26.5            | 12.2 | 28.9         | 4.5  | 0.6  | 0.8  |
| 1971 | 23.7            | 11.7 | 27.8         | 6.0  | 0.3  | 1.9  |
| 1972 | 24.5            | 14.3 | 21.9         | 6.1  | 0.8  | 2.8  |
| 1973 | 23.9            | 9.9  | 23.8         | 7.6  | 0.9  | 4.1  |
| 1974 | 22.2            | 13.4 | 16.4         | 8.5  | 1.0  | 5.9  |
| 1975 | 23.2            | 13.1 | 17.6         | 7.8  | 0.9  | 5.9  |
| 1976 | 22.1            | 12.8 | 24.1         | 11.3 | 0.8  | 5.3  |
| 1977 | 29.2            | 10.0 | 13.3         | 11.9 | 0.5  | 5.8  |
| 1978 | 27.3            | 9.8  | 17.2         | 11.5 | 0.7  | 3.8  |
| 1979 | 33.7            | 7.8  | 11.8         | 14.2 | 1.2  | 4.4  |
| 1980 | 32.2            | 8.0  | 12.1         | 11.8 | 0.9  | 4.5  |
| 1981 | 23.2            | 8.4  | 8.8          | 12.1 | 1.5  | 6.7  |
| 1982 | 16.4            | 6.1  | 6.6          | 13.4 | 5.4  | 6.9  |
| 1983 | 15.3            | 4.2  | 5.2          | 14.7 | 6.2  | 11.3 |
| 1984 | 13.1            | 3.0  | 4.1          | 14.1 | 7.4  | 17.8 |
| 1985 | 11.7            | 4.2  | 3.7          | 13.2 | 11.0 | 15.2 |
| 1986 | 16.5            | 3.6  | 3.5          | 12.6 | 10.0 | 16.7 |
| 1987 | 14.1            | 3.1  | 1.5          | 11.9 | 7.7  | 21.6 |
| 1988 | 13.6            | 2.3  | 2.2          | 11.8 | 11.5 | 19.9 |
| 1989 | 11.1            | 4.1  | 2.4          | 11.6 | 10.9 | 23.4 |
| 1990 | 13.4            | 3.4  | 2.1          | 11.2 | 11.5 | 25.6 |
| 1991 | 12.9            | 4.2  | 2.0          | 10.7 | 9.7  | 25.4 |
| 1992 | 10.7            | 2.3  | 0.8          | 11.2 | 9.4  | 28.1 |
| 1993 | 10.9            | 2.9  | 1.3          | 10.6 | 11.9 | 28.0 |

資料 12 輸入構造



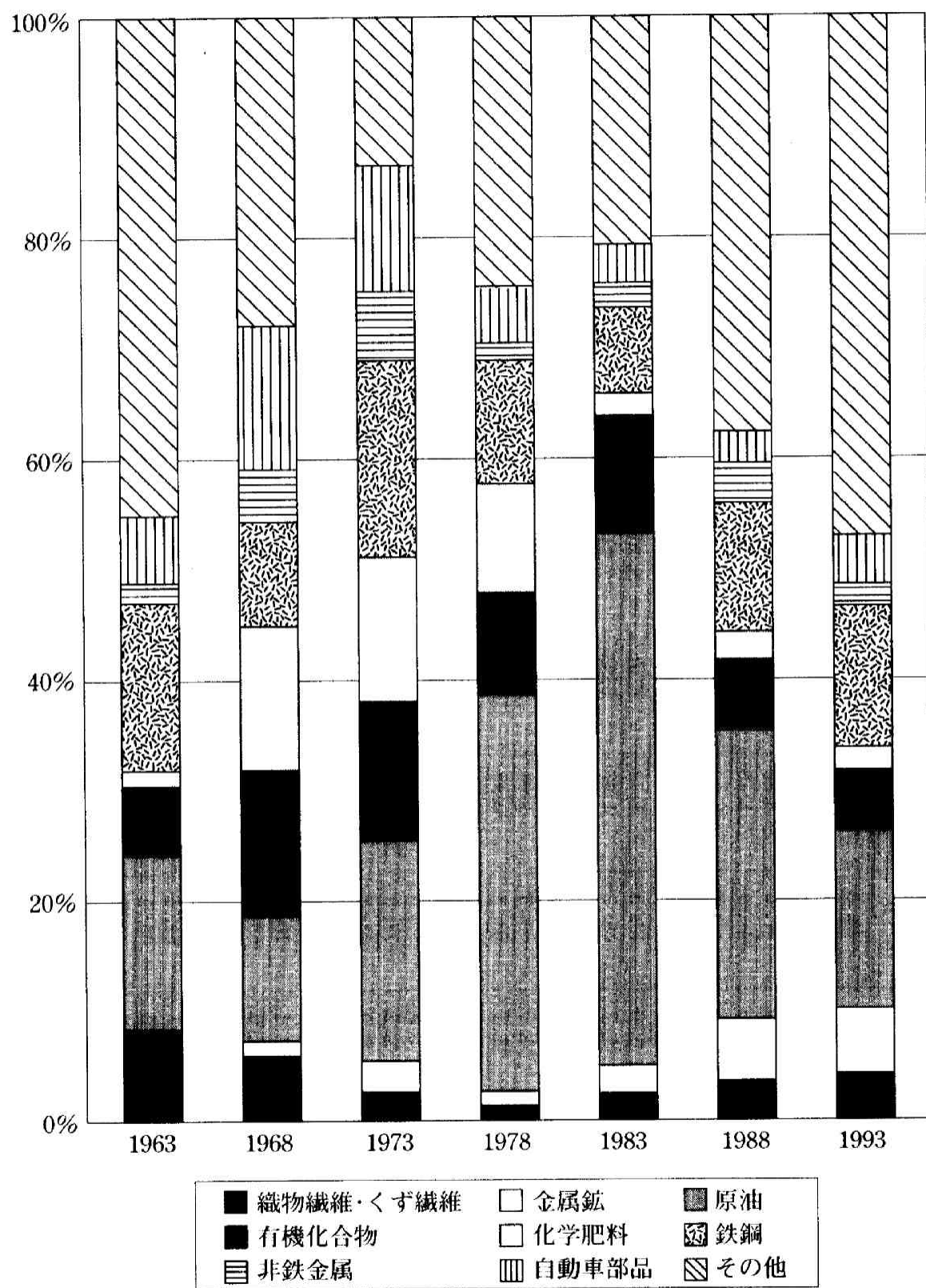


資料 13 輸入品の総輸入額に占める割合 (%)

| 年    | 資本財  | 消費財  | 投入財  | 繊維・<br>織物繊維* | 金属鉱物 | 原油    | 有機化合物 | 化学肥料 | 鉄     | 鋼 | 非鉄金属 | 自動車部品 |
|------|------|------|------|--------------|------|-------|-------|------|-------|---|------|-------|
| 1963 | 45.8 | 5.4  | 48.8 | 3.93         | 0.07 | 7.70  | 2.98  | 0.81 | 7.3   |   | 1.08 | 2.92  |
| 1964 | 45.7 | 4.9  | 49.4 | 3.91         | 0.21 | 10.73 | 3.97  | 0.85 | 7.84  |   | 1.60 | 3.33  |
| 1965 | 42.2 | 4.3  | 53.5 | 3.65         | 0.23 | 8.46  | 5.27  | 3.06 | 8.79  |   | 2.14 | 3.37  |
| 1966 | 47.5 | 5.0  | 47.5 | 3.22         | 0.24 | 5.93  | 4.79  | 3.89 | 7.58  |   | 2.23 | 4.84  |
| 1967 | 47.3 | 4.9  | 47.9 | 3.12         | 0.34 | 5.43  | 5.90  | 5.42 | 5.36  |   | 2.40 | 6.26  |
| 1968 | 48.0 | 4.8  | 47.2 | 2.69         | 0.45 | 5.58  | 6.25  | 6.24 | 4.44  |   | 2.27 | 6.20  |
| 1969 | 43.8 | 6.8  | 49.4 | 2.51         | 0.30 | 4.81  | 6.67  | 6.48 | 4.38  |   | 2.31 | 5.33  |
| 1970 | 47.1 | 5.0  | 47.9 | 2.09         | 0.52 | 5.18  | 6.81  | 2.94 | 7.02  |   | 2.31 | 3.40  |
| 1971 | 43.7 | 5.0  | 51.3 | 1.73         | 0.91 | 8.30  | 6.33  | 2.72 | 8.35  |   | 2.79 | 3.74  |
| 1972 | 50.1 | 4.7  | 45.3 | 1.67         | 0.96 | 7.94  | 6.15  | 3.93 | 6.12  |   | 2.30 | 5.15  |
| 1973 | 48.1 | 4.3  | 47.6 | 1.10         | 1.21 | 9.60  | 6.13  | 6.25 | 8.62  |   | 2.99 | 5.29  |
| 1974 | 34.1 | 4.2  | 61.7 | 1.56         | 0.71 | 18.36 | 5.60  | 2.68 | 12.67 |   | 3.38 | 3.33  |
| 1975 | 41.4 | 4.3  | 54.3 | 1.08         | 0.46 | 15.15 | 7.03  | 1.02 | 12.6  |   | 2.03 | 3.77  |
| 1976 | 43.7 | 3.1  | 53.3 | 0.95         | 0.85 | 19.55 | 6.79  | 1.89 | 9.01  |   | 1.64 | 4.24  |
| 1977 | 38.9 | 3.1  | 58.0 | 1.01         | 1.13 | 19.87 | 5.69  | 3.65 | 10.3  |   | 1.53 | 3.89  |
| 1978 | 34.6 | 2.9  | 62.5 | 0.45         | 0.98 | 22.69 | 5.83  | 6.14 | 7.15  |   | 0.86 | 3.36  |
| 1979 | 31.5 | 1.9  | 66.6 | 0.79         | 1.58 | 18.97 | 6.82  | 6.96 | 4.88  |   | 0.88 | 2.66  |
| 1980 | 20.0 | 2.2  | 77.9 | 0.69         | 1.47 | 34.26 | 6.11  | 4.95 | 4.3   |   | 0.97 | 1.59  |
| 1981 | 24.7 | 2.0  | 73.3 | 0.84         | 1.72 | 36.46 | 7.82  | 2.69 | 4.51  |   | 1.39 | 1.82  |
| 1982 | 26.3 | 2.1  | 71.7 | 0.83         | 1.38 | 35.47 | 5.86  | 0.51 | 4.59  |   | 1.02 | 2.02  |
| 1983 | 25.1 | 2.6  | 72.3 | 1.53         | 1.81 | 35.11 | 7.93  | 1.29 | 5.53  |   | 1.96 | 2.18  |
| 1984 | 24.7 | 4.4  | 70.9 | 1.38         | 1.82 | 31.36 | 8.14  | 1.18 | 6.26  |   | 1.97 | 1.86  |
| 1985 | 22.9 | 8.0  | 69.1 | 1.35         | 1.84 | 29.28 | 3.75  | 1.59 | 7.7   |   | 1.86 | 1.85  |
| 1986 | 31.3 | 8.6  | 60.1 | 1.73         | 2.55 | 16.28 | 4.25  | 1.42 | 6.69  |   | 1.99 | 1.99  |
| 1987 | 27.0 | 8.2  | 64.8 | 2.58         | 2.61 | 19.15 | 4.06  | 2.1  | 7.86  |   | 2.74 | 1.71  |
| 1988 | 27.8 | 7.7  | 64.4 | 2.01         | 3.55 | 16.95 | 4.15  | 1.68 | 7.47  |   | 2.69 | 1.58  |
| 1989 | 24.3 | 8.8  | 66.9 | 2.12         | 4.91 | 15.55 | 4.24  | 1.72 | 8.88  |   | 2.51 | 1.17  |
| 1990 | 26.0 | 13.6 | 60.5 | 2.18         | 2.73 | 15.67 | 3.32  | 1.11 | 5.56  |   | 2.3  | 1.61  |
| 1991 | 28.8 | 13.8 | 57.4 | 1.61         | 3.44 | 11.67 | 3.65  | 1.26 | 5.69  |   | 1.67 | 1.87  |
| 1992 | 29.6 | 13.0 | 57.4 | 2.14         | 2.94 | 11.51 | 3.51  | 1.04 | 5.65  |   | 1.4  | 2.5   |
| 1993 | 32.5 | 14.0 | 53.5 | 1.98         | 3.18 | 8.67  | 2.96  | 1.05 | 6.78  |   | 1.24 | 2.36  |

\*糸又は繊維に加工したものを除く

資料 14 輸入投入財の構成



資料 15 為替相場 (トルコ・リラ対米ドル)

| 年    | 年 末   | 平均相場  | 年    | 年 末       | 平均相場      |
|------|-------|-------|------|-----------|-----------|
| 1950 | 2.80  | 2.80  | 1973 | 14.00     | 14.00     |
| 1951 | 2.80  | 2.80  | 1974 | 13.85     | 13.74     |
| 1952 | 2.80  | 2.80  | 1975 | 15.00     | 14.31     |
| 1953 | 2.80  | 2.80  | 1976 | 16.50     | 15.86     |
| 1954 | 2.80  | 2.80  | 1977 | 19.25     | 17.83     |
| 1955 | 2.80  | 2.80  | 1978 | 25.00     | 24.07     |
| 1956 | 2.80  | 2.80  | 1979 | 47.10     | 37.55     |
| 1957 | 2.80  | 2.80  | 1980 | 89.25     | 76.03     |
| 1958 | 2.80  | 2.80  | 1981 | 129.70    | 110.24    |
| 1959 | 2.80  | 2.80  | 1982 | 185.14    | 160.94    |
| 1960 | 9.00  | 9.00  | 1983 | 273.97    | 224.03    |
| 1961 | 9.00  | 9.00  | 1984 | 432.49    | 364.85    |
| 1962 | 9.00  | 9.00  | 1985 | 574.00    | 518.34    |
| 1963 | 9.00  | 9.00  | 1986 | 755.90    | 669.40    |
| 1964 | 9.00  | 9.00  | 1987 | 1,018.35  | 855.69    |
| 1965 | 9.00  | 9.00  | 1988 | 1,813.02  | 1,420.76  |
| 1966 | 9.00  | 9.00  | 1989 | 2,311.37  | 2,120.78  |
| 1967 | 9.00  | 9.00  | 1990 | 2,927.13  | 2,607.62  |
| 1968 | 9.00  | 9.00  | 1991 | 5,074.83  | 4,169.85  |
| 1969 | 9.00  | 9.00  | 1992 | 8,555.85  | 6,887.51  |
| 1970 | 15.00 | 11.34 | 1993 | 14,450.03 | 10,985.96 |
| 1971 | 14.00 | 14.98 | 1994 | 38,687.00 | 29,704.33 |
| 1972 | 14.00 | 14.00 |      |           |           |

資料 16 関税率

| 年    | 輸入関税収入<br>(10 億 TL) | 工業製品関税率<br>(%) |
|------|---------------------|----------------|
| 1975 | 19                  | 28.3           |
| 1976 | 25                  | 30.8           |
| 1977 | 31                  | 30.3           |
| 1978 | 44                  | 39.7           |
| 1979 | 45                  | 23.6           |
| 1980 | 93                  | 15.5           |
| 1981 | 111                 | 11.3           |
| 1982 | 166                 | 11.7           |
| 1983 | 255                 | 12.3           |
| 1984 | 378                 | 9.6            |
| 1985 | 746                 | 12.7           |
| 1986 | 993                 | 13.4           |
| 1987 | 1778                | 14.7           |
| 1988 | 2672                | 13.2           |
| 1989 | 4246                | 12.0           |
| 1990 | 8057                | 13.7           |
| 1991 | 12864               | 14.7           |
| 1992 | 22849               | 15.0           |
| 1993 | 46212               | 14.2           |

資料 18 金利 (%)

| 年    | 預金金利  | 公定歩合  | 銀行間翌日金利 | 卸売物価上昇率 |
|------|-------|-------|---------|---------|
| 1970 | 9.00  | 9.00  | —       | 9.5     |
| 1971 | 9.00  | 9.00  | —       | 17.0    |
| 1972 | 9.00  | 9.00  | —       | 15.5    |
| 1973 | 7.00  | 8.75  | —       | 21.0    |
| 1974 | 9.00  | 9.00  | —       | 26.9    |
| 1975 | 9.00  | 9.00  | —       | 11.4    |
| 1976 | 9.00  | 9.00  | —       | 17.3    |
| 1977 | 9.00  | 9.00  | —       | 28.5    |
| 1978 | 12.00 | 10.00 | —       | 53.6    |
| 1979 | 20.00 | 10.75 | —       | 75.1    |
| 1980 | 33.00 | 26.00 | —       | 90.3    |
| 1981 | 35.00 | 31.50 | —       | 34.1    |
| 1982 | 50.00 | 31.50 | —       | 27.4    |
| 1983 | 45.00 | 48.50 | —       | 28.1    |
| 1984 | 45.00 | 52.00 | —       | 46.4    |
| 1985 | 55.00 | 52.00 | —       | 41.7    |
| 1986 | 48.00 | 48.00 | 39.09   | 27.5    |
| 1987 | 58.00 | 45.00 | 42.36   | 39.3    |
| 1988 | 83.90 | 54.00 | 46.77   | 60.8    |
| 1989 | 58.80 | 54.00 | 26.87   | 64.2    |
| 1990 | 59.40 | 50.75 | 62.72   | 50.0    |
| 1991 | 72.70 | 54.50 | 59.87   | 52.6    |
| 1992 | 74.20 | 54.50 | 67.77   | 67.1    |
| 1993 | 74.80 | 54.50 | 69.93   | 55.2    |
| 1994 | 95.56 | 64.00 | 92.05   | 120.5   |

資料 17 卸売物価指数 (94 品目, 1960 年 = 100)

| 年    | 物価指数  | 年    | 物価指数     |
|------|-------|------|----------|
| 1950 | 34.2  | 1971 | 181.6    |
| 1951 | 38.4  | 1972 | 209.6    |
| 1952 | 38.2  | 1973 | 253.7    |
| 1953 | 38.5  | 1974 | 322.0    |
| 1954 | 43.1  | 1975 | 358.6    |
| 1955 | 49.1  | 1976 | 420.8    |
| 1956 | 57.0  | 1977 | 540.5    |
| 1957 | 67.1  | 1978 | 830.4    |
| 1958 | 80.2  | 1979 | 1454.4   |
| 1959 | 98.7  | 1980 | 2767.3   |
| 1960 | 100.0 | 1981 | 3711.9   |
| 1961 | 100.5 | 1982 | 4727.2   |
| 1962 | 103.4 | 1983 | 6055.0   |
| 1963 | 107.2 | 1984 | 8866.7   |
| 1964 | 106.1 | 1985 | 12566.2  |
| 1965 | 111.8 | 1986 | 16027.2  |
| 1966 | 119.7 | 1987 | 22323.0  |
| 1967 | 127.7 | 1988 | 35900.1  |
| 1968 | 130.9 | 1989 | 59234.4  |
| 1969 | 141.7 | 1990 | 88601.9  |
| 1970 | 155.2 | 1991 | 135170.9 |

資料 19-a 国民総支出(1) GDP シェア (%)

| 年    | 個人消費支出： |       |       |          |                |      |      |
|------|---------|-------|-------|----------|----------------|------|------|
|      | 合 計     | 食糧・飲料 | 耐久消費財 | 半・非耐久消費財 | エネルギー<br>輸送・通信 | サービス | 住 宅  |
| 1980 | 77.8    | 40.4  | 10.0  | 17.4     | 12.2           | 8.3  | 11.6 |
| 1981 | 77.0    | 40.9  | 10.1  | 17.6     | 12.4           | 8.4  | 10.6 |
| 1982 | 80.5    | 41.2  | 10.1  | 17.6     | 12.4           | 8.5  | 10.2 |
| 1983 | 79.8    | 40.8  | 10.2  | 17.7     | 12.4           | 8.4  | 10.5 |
| 1984 | 78.9    | 41.3  | 10.2  | 17.7     | 12.5           | 8.5  | 9.8  |
| 1985 | 77.6    | 41.2  | 10.1  | 17.7     | 12.5           | 8.5  | 10.1 |
| 1986 | 72.5    | 41.3  | 10.1  | 17.7     | 12.5           | 8.4  | 10.0 |
| 1987 | 68.6    | 41.1  | 10.4  | 18.0     | 12.6           | 8.4  | 9.4  |
| 1988 | 65.2    | 39.1  | 9.9   | 18.7     | 14.5           | 9.9  | 7.8  |
| 1989 | 67.7    | 40.4  | 10.0  | 17.2     | 15.3           | 10.9 | 6.2  |
| 1990 | 68.7    | 39.9  | 11.9  | 19.1     | 14.0           | 9.7  | 5.4  |
| 1991 | 68.1    | 38.4  | 11.4  | 19.2     | 15.3           | 9.9  | 5.9  |
| 1992 | 66.8    | 36.9  | 11.0  | 17.9     | 17.5           | 10.5 | 6.1  |
| 1993 | 66.5    | 38.5  | 11.5  | 17.3     | 16.7           | 10.4 | 5.6  |
| 1994 | 66.1    | 38.4  | 9.9   | 15.7     | 19.0           | 11.6 | 5.4  |
| 1995 | 70.4    | 38.0  | 11.8  | 18.5     | 16.1           | 10.6 | 5.0  |

資料 19-b 国民総支出(2) GDP シェア (%)

| 年    | 総固定資本形成： |      |       |      |      |      |       |      |
|------|----------|------|-------|------|------|------|-------|------|
|      | 合 計      | 公共部門 |       |      |      | 民間部門 |       |      |
|      |          | 計    | 機械・設備 | 建 設  |      | 計    | 機械・設備 | 建 設  |
|      |          |      |       | 建 物  | その他  |      |       |      |
| 1980 | 18.1     | 53.1 | 46.4  | 19.6 | 34.0 | 46.9 | 16.7  | 83.3 |
| 1981 | 16.5     | 61.6 | 43.8  | 20.2 | 36.0 | 38.4 | 21.9  | 78.1 |
| 1982 | 15.1     | 62.0 | 47.0  | 18.2 | 34.8 | 38.0 | 31.5  | 68.5 |
| 1983 | 16.6     | 58.4 | 47.8  | 17.5 | 34.7 | 41.6 | 36.1  | 63.9 |
| 1984 | 17.5     | 52.6 | 42.3  | 20.2 | 37.5 | 47.4 | 45.4  | 54.6 |
| 1985 | 18.7     | 54.4 | 44.6  | 18.2 | 37.2 | 45.6 | 40.3  | 59.7 |
| 1986 | 23.0     | 46.7 | 39.3  | 18.5 | 42.2 | 53.3 | 39.0  | 61.0 |
| 1987 | 24.8     | 41.7 | 35.3  | 19.3 | 45.4 | 58.3 | 37.5  | 62.5 |
| 1988 | 26.8     | 34.4 | 37.9  | 18.8 | 43.3 | 65.6 | 30.6  | 69.4 |
| 1989 | 23.5     | 33.6 | 33.9  | 18.6 | 47.5 | 66.4 | 28.5  | 71.5 |
| 1990 | 22.9     | 31.7 | 30.9  | 19.9 | 49.2 | 68.3 | 38.6  | 61.4 |
| 1991 | 23.4     | 33.1 | 29.4  | 19.5 | 51.1 | 66.9 | 39.4  | 60.6 |
| 1992 | 22.9     | 32.5 | 32.0  | 18.9 | 49.1 | 67.5 | 39.0  | 61.0 |
| 1993 | 25.2     | 27.9 | 29.2  | 20.5 | 50.3 | 72.1 | 44.7  | 55.3 |
| 1994 | 24.4     | 21.9 | 19.3  | 19.1 | 61.6 | 78.1 | 33.6  | 66.4 |
| 1995 | 23.3     | 16.2 | 24.7  | 23.6 | 51.7 | 83.8 | 50.3  | 49.7 |

資料 19-c 国民総支出(3) GDP シェア (%)

| 年    | 政府消費支出： |      |      | 在庫品増加 | 移出(財・サービス) | 移入(財・サービス) |
|------|---------|------|------|-------|------------|------------|
|      | 計       | 俸 給  | 経常費  |       |            |            |
| 1980 | 10.3    | 86.1 | 13.9 | 0.5   | 5.5        | -12.2      |
| 1981 | 8.6     | 80.0 | 20.0 | 2.3   | 8.6        | -13.1      |
| 1982 | 7.4     | 80.9 | 19.1 | 0.3   | 11.9       | -15.2      |
| 1983 | 8.4     | 70.0 | 30.0 | -0.5  | 12.5       | -16.9      |
| 1984 | 7.4     | 69.5 | 30.5 | 0.6   | 15.6       | -20.0      |
| 1985 | 6.6     | 76.9 | 23.1 | 0.2   | 15.9       | -19.1      |
| 1986 | 6.7     | 69.9 | 30.1 | 0.9   | 13.3       | -16.4      |
| 1987 | 7.9     | 64.8 | 35.2 | 0.9   | 15.6       | -17.8      |
| 1988 | 7.8     | 64.7 | 35.3 | -1.0  | 19.2       | -18.0      |
| 1989 | 9.6     | 73.1 | 26.9 | 0.7   | 16.7       | -18.4      |
| 1990 | 11.0    | 75.5 | 24.5 | 1.7   | 13.4       | -17.6      |
| 1991 | 12.3    | 78.0 | 22.0 | -1.0  | 13.7       | -16.4      |
| 1992 | 12.9    | 79.1 | 20.9 | 0.4   | 14.3       | -17.3      |
| 1993 | 12.7    | 79.8 | 20.2 | 1.1   | 13.5       | -19.1      |
| 1994 | 11.6    | 76.4 | 23.6 | -3.1  | 21.3       | -20.3      |
| 1995 | 10.9    | 74.0 | 26.0 | 0.05  | 20.0       | -24.6      |

資料 20 国民総所得 GDP シェア (%)

| 年    | 純間接税 | 間接税  | 補助金 | 固定資本減耗 | 雇用者報酬 | 営業余剰 |
|------|------|------|-----|--------|-------|------|
| 1980 | 5.2  | 7.4  | 2.1 | 4.8    | 27.1  | 62.8 |
| 1981 | 5.3  | 7.6  | 2.4 | 5.4    | 23.8  | 65.6 |
| 1982 | 4.7  | 6.6  | 1.9 | 5.7    | 22.5  | 67.1 |
| 1983 | 5.6  | 7.9  | 2.3 | 6.3    | 23.4  | 64.7 |
| 1984 | 4.5  | 7.0  | 2.5 | 7.0    | 21.0  | 67.5 |
| 1985 | 5.3  | 7.3  | 2.0 | 7.3    | 19.7  | 67.7 |
| 1986 | 7.0  | 8.5  | 1.5 | 7.2    | 19.4  | 66.4 |
| 1987 | 8.1  | 9.0  | 0.9 | 7.0    | 20.6  | 64.4 |
| 1988 | 7.8  | 8.8  | 0.9 | 7.4    | 20.9  | 63.8 |
| 1989 | 7.6  | 8.7  | 1.0 | 6.5    | 23.2  | 62.6 |
| 1990 | 8.6  | 9.7  | 1.1 | 5.9    | 26.1  | 59.5 |
| 1991 | 8.6  | 10.5 | 1.8 | 6.2    | 30.8  | 54.4 |
| 1992 | 8.7  | 10.9 | 2.1 | 6.1    | 30.6  | 54.5 |
| 1993 | 9.3  | 11.1 | 1.9 | 5.6    | 29.9  | 55.2 |
| 1994 | 8.3  | 10.7 | 2.4 | 4.3    | 24.8  | 62.5 |